

川棚温泉エリア 景観デザインガイドライン



令和6年 3月

下関市

目 次

1. 景観デザインガイドラインの概要	1
2. 川棚温泉エリアの現状	5
3. 川棚温泉エリアの住民意向	13
4. 景観に関する課題	16
5. 景観まちづくりの基本的な考え方	18
6. 景観特性等を踏まえたゾーン設定	23
7. 景観まちづくりのポイント	25
8. 将来予想図	62
9. 景観まちづくりに要する概算事業費	67

1. 景観デザインガイドラインの概要

(1) 目的

下関市では、豊浦地域※¹〔川棚温泉エリア※²〕の将来的な地域の自立的発展を目指し、令和4年度に豊浦地域〔川棚温泉エリア〕再生計画（地域再生計画）を作成し、官民連携による各種の取組を進めています。

今後、川棚温泉エリアの景観を生かしたより良いまちづくりを進めるためには、将来に引き継いでいくべき自然資源や人文資源（歴史・文化）などの現状や課題を的確に把握して共有し、官民が一体となった共通の将来像をイメージしておくことが大切です。

この「川棚温泉エリア景観デザインガイドライン」は、このような観点に立ち、地域再生計画に掲げる取組の一環として、川棚温泉エリアにおける景観まちづくり※³を進める上での手引きや一つの判断材料となるよう、景観資源の現状や課題、まちづくりの手法等を、地域にお住まいの皆様のご意見や全国の事例などに基づき、様々な視点・角度から整理したものです。

やがて本ガイドラインが、景観まちづくりの在り方を見つめ直す際のツールとして幅広く活用され、川棚温泉エリア、ひいては豊浦地域全体におけるにぎわいの創出やまちの活性化につながっていくことを願っています。



※ 1：下関市豊浦町の区域

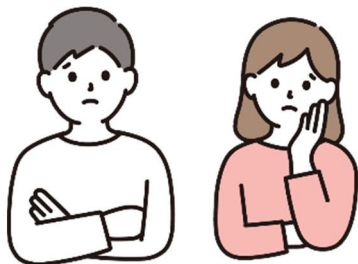
※ 2：川棚温泉街※⁴、J R山陰本線川棚温泉駅、舟郡ダム（青龍湖）及びリフレッシュパーク豊浦並びにこれらを相互に接続する県道豊浦清末線及び県道豊浦久野線の沿道に形成された区域

※ 3：まちの景観向上に着目してにぎわいの創出や地域の活性化を図り、まちを魅力的な資産として次世代に引き継いでいこうとする取組

※ 4：県道豊浦清末線及び県道豊浦久野線の交差点を中心とした半径250m以内の範囲のうち当該両県道の東側及び南側の区域で、市道湯谷1号線、市道湯谷線、市道湯町3号線、市道金塚線及び市道湯町循環線の沿道に形成された温泉街の区域

(2) ガイドラインの概要

□川棚温泉エリアの資源、現状・課題をお示しします



本ガイドラインでは、まず川棚温泉エリアの景観に関する資源と、景観まちづくりの現状・課題について整理します。また、先般、地域にお住まいの皆さんを対象に実施した、川棚温泉エリアの景観イメージや改善点などに係る意向調査の結果もお示しします。

□景観まちづくりの基本的な考え方・ゾーン設定をお示しします



景観まちづくりの現状・課題を踏まえ、これから川棚温泉エリア全体で景観まちづくりを進めていく上で大切な視点や基本的な考え方について整理します。その上で、エリア内の景観的な特徴を踏まえたゾーニングを設定し、それぞれにおける取組についてお示しします。

□景観まちづくりのポイントをお示しします



川棚温泉エリアの各ゾーンを意識しつつ、景観まちづくりの実践例を整理します。また、取組の中で地域住民や事業者など地域関係者の方にご協力いただきたい内容や取組のイメージを緩やかなルールとしてお示しします。今後の景観まちづくりの実践に向けては、皆様のご協力が不可欠となりますので、関わりのあるゾーンについてご確認ください。

□川棚温泉エリアの未来予想図をお示しします



景観まちづくりの実現に向けては、皆さんで川棚温泉エリアの将来像を共有し、それぞれできることを少しずつでも実践していただくことが大切です。そこで、これから実際に取り組んでいただく上での道しるべとなるよう、特に重要な場所での未来予想図をお示しします。

(3) 対象区域

対象区域は、川棚温泉街※¹、J R山陰本線川棚温泉駅、舟郡ダム（青龍湖）及びリフレッシュパーク豊浦並びにこれらを相互に接続する県道豊浦清末線及び県道豊浦久野線の沿道に形成された区域です。

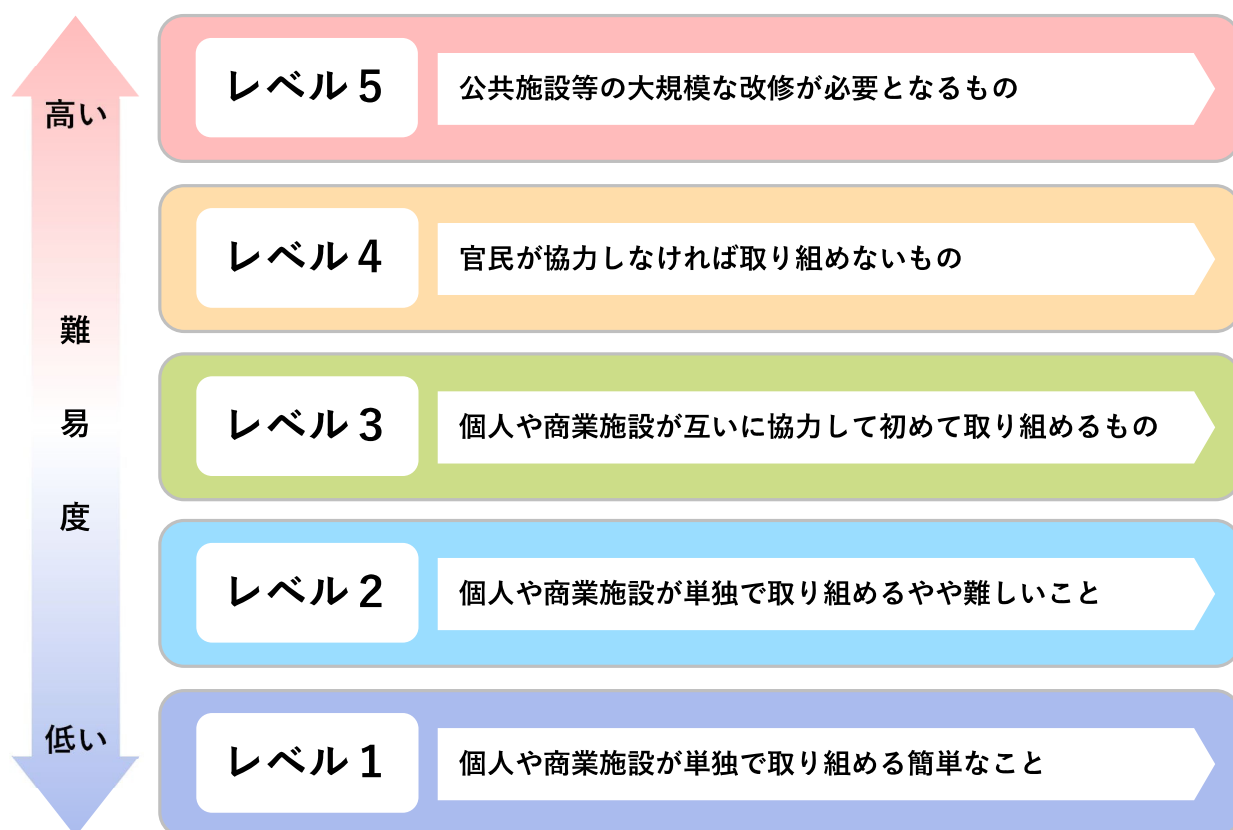


※ 1：県道豊浦清末線及び県道豊浦久野線の交差点を中心とした半径250m以内の範囲のうち当該両県道の東側及び南側の区域で、市道湯谷1号線、市道湯谷線、市道湯町3号線、市道金塚線及び市道湯町循環線の沿道に形成された温泉街の区域

(4) 取組のレベル（難易度）

本ガイドラインは、対象区域にお住まいの皆さんが、川棚らしさを生かしたよりよい景観まちづくりを一緒に進めていくための手引きとして、活用していただくことを目的にしています。

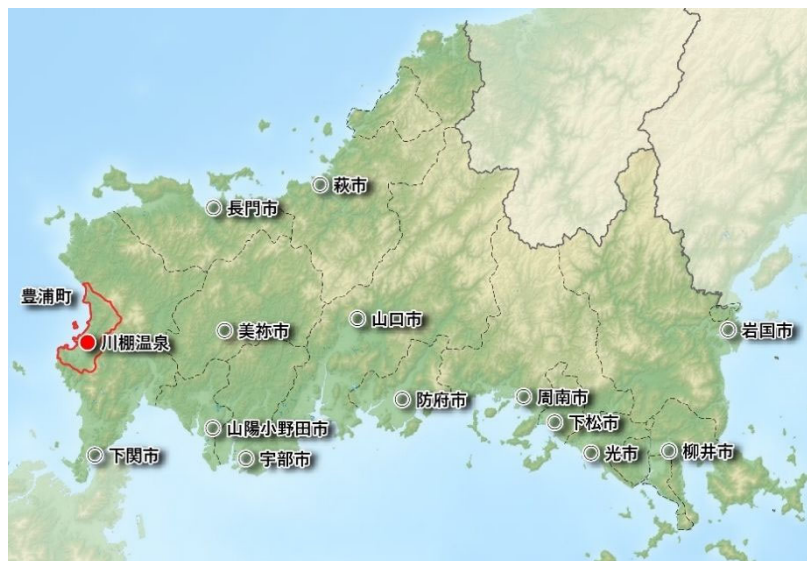
そのため、個人や商業施設がそれぞれ単独で取り組める簡単なことから、協力しなければ取り組めないやや難しいことまで、5段階のレベルに応じて提示します。



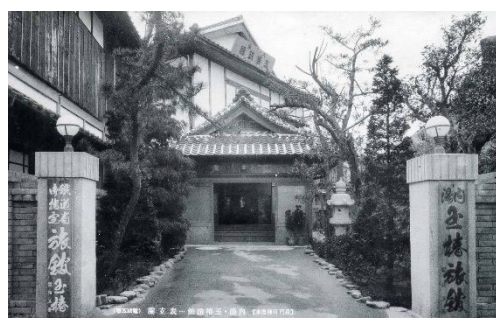
2. 川棚温泉エリアの現状

(1) 概況

川棚温泉は、下関の奥座敷と呼ばれ、その起源は遙か昔の青龍伝説であると言われています。江戸時代には、長府藩の「御殿湯」が設置され、川棚温泉は湯治場として名を馳せ、明治時代以降は下関の繁栄とともににぎわいました。また、この地は、多くの偉人たちに愛された場所でもあります。



[古写真から見る川棚温泉の風景]



(2) 川棚温泉

— 起 源 —

遠い昔、豊浦の奥深い森に囲まれた泉に、一匹の青龍がすんでいました。その泉はどんな日照りでも枯れず、下流の村に豊かな水をもたらしていました。しかしある時、この地を大地震が襲いました。その大地震は、一夜にして青龍のすむ泉を熱湯に変え、山を崩し、泉を埋めてしまったのです。すむ場所を失った青龍は、ほどなく命を落とし、青龍と泉を失った村では作物が枯れ、人々は疫病に苦しんだそうです。困り果てた村人達は、青龍をこの地の守り神として祀る社を建て、祈り続けました。



そんなある日、村人が泉のあった場所を掘ると、そこからお湯が湧き出しました。温泉です。不思議なことに、病気で苦しんでいた人々がそのお湯を浴びると、みるみる元気になったといえます。しかし、その後月日は流れ、温泉が枯れてしまうと、青龍のことも次第に忘れられていきました。

室町時代の応永年間（1394～1428年）、この地を再び日照りと疫病が襲います。川棚を見下ろす小高い山中にある三恵寺（さんねじ）の住職だった怡雲（いうん）和尚は、災厄に苦しむ人々を助けたいと仏に祈り続けました。するとある晩、和尚の枕元に薬師如来が現れ、この地にすんでいた青龍の伝説と人々の病気を治した温泉の物語を告げたのです。和尚は決心しました。村人を集めて作業に取りかかると、見事、忘れ去られていた温泉を掘り起こすことに成功。その温泉は、薬師如来の霊告どおり、浴びた人々の病気を次々に治していったそうです。

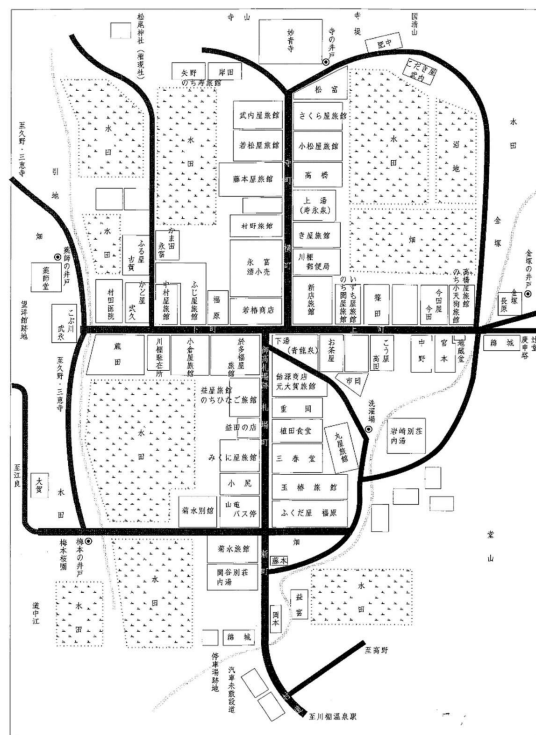
平穩が訪れた村では、青龍を温泉と村の守護神として祀り、祈り続けることを決めました。それから数百年、この青龍伝説は、川棚温泉の起源として今も語り継がれています。

— 隆 盛 —

川棚温泉は、歴史的に多くの旅人に愛されることで発展してきた場所で、ある旅人の記録には「温泉気分」が魅力であると記されています。放浪の俳人である種田山頭火（たねださんとうか）は、彼の旅日記である「行乞記（ぎょうこつき）」に「地形に於て申分がない」と記しています。旅人が旅先の土地に魅了されるのは、旅の過程で湧きおこる「一瞬の感覚」があったときで、その感覚が刺激される「一瞬」が多ければ多いほど、魅力的な土地といえます。旅人が感じる土地の魅力とは、その土地固有の気候や歴史、文化など、そこに住む人々が長い時間をかけて積み上げてきた調和の姿とも言えるでしょう。

川棚温泉が観光地として利用され始めたのは、江戸時代中期以降とされています。江戸時代には、当時から湯治客を対象にした多くの宿があり、宿は、木賃宿と呼ばれる自炊の安宿から食事を出す格上の旅籠まで様々な形態がありました。このころの温泉旅館にはまだ「内湯」はなく、湯町の浴場としては「無田の湯（上湯）」と「町の湯（下湯）」の2か所でした。

【昭和初期の湯町地図】



※この地図は、昭和49年湯町に住む湯民が湯町の歴史を伝えるために、湯民の協力により作成された昭和初期の湯町地図に教育委員会が加筆したものです。

出典：「川棚温泉を旅する」豊浦町教育委員会

（３）川棚温泉に魅了された偉人達

怡雲（いうん）

怡雲は、京都・鹿苑寺（金閣寺）に一時身を置いた経歴を持つ僧侶で、応永年間（1394～1428年）に三恵寺（さんねじ）の住職を務めていたころ、夢に現れた薬師如来のお告げから、再び温泉を掘り当てたと伝えられています。以来、絶えることなく湧き上がるナトリウム・カルシウム塩化物泉は、病氣平癒に効果があるといわれ、地元の人々に愛されてきました。

歴代の毛利侯

慶長15年（1610年）の検地帳によると、川棚温泉には、9件の湯屋敷があったと記されています。そして、この川棚温泉を一躍有名にしたのが、長門長府藩第三代藩主・毛利綱元（もうりつなもと：1650～1709年）です。わずか4歳で家督を継ぎ、56年にわたり藩政にあたった綱元は、病の治癒を目的に妙青寺に本陣を置き、川棚温泉に浸かったところ、たちどころに回復。感激した綱元は、薬師院を建立しました。元禄6年（1693年）には、殿様専用の湯治場「御殿湯」や御茶屋が設けられ、この御殿湯の誕生とともに川棚温泉は手厚く保護され、厳格な入湯制度も設けられました。また、江戸時代に入ると、萩藩主が領内を視察する御国廻りのコースに川棚温泉が含まれるようになりました。



毛利綱元画像（下関市立歴史博物館蔵）

種田山頭火（たねださんとうか）（1882～1940）

俳句という文学に新風を吹き込んだ種田山頭火。数奇な運命に翻弄されながらも、自由律俳句の巨星となりました。西日本を中心に放浪しながら句作に励んだこの漂泊の俳人もまた、川棚に魅了された一人でした。とりわけ、なだらかな山々に抱かれた日本の原風景ともいえる素朴な風土、そして、こんこんと湧き出る温泉。当時の川棚温泉は、稀代の俳人に、「この場所こそ我が終生の地」と思わせるほどの魅力に満ちていました。



©旧小林写真館本展 小林銀汀

アルフレッド・コルトー（1877～1962）

世界が酔いしれたショパンの名手で、20世紀前半のフランスを代表する大ピアニスト、アルフレッド・コルトー。

昭和27年（1952年）、晩年期を迎えたコルトーは、念願の日本公演を果たし、9月から11月まで全国各地で公演を行いました。山口県では宇部と下関でコンサートを開催し、この間、コルトーが宿泊したのが川棚温泉のホテルでした。来日して2週間目を迎えていたコルトーは、穏やかな海となだらかな山に抱かれた、優しい川棚の美しさに魅了され、「私はこれまで世界の美しい海や山を見てきたが、こんなに美しい夢のような島は見たことがない。日本は素晴らしい。なぜか外国にいる感じがしない。日本はブレ・ペイ（本当の国）だ。そう言える国はたくさんあるものじゃない。永久に住んでも悔いはない」と、同行していた愛弟子に語ったと言われています。



※島山民俗資料館所蔵
『アルフレッド・コルトー演奏会プログラム』
（発行：朝日新聞社 昭和27年）より引用

(4) 川棚八景

中国で10世紀に様式化された風景の評価基準として「八景」というものがあります。ある地域において、絵に描かれたり、詩歌で唄われたりする風光明媚な景色から8つを選定したものです。人々の営みなども含めて絶景を評した「八景」は、庶民の間で観光旅行がブームになった江戸時代において、観光地を評価する定番の指標の一つだったそうです。

川棚地区は、西に雄大な響灘を臨み、東に穏やかな山々が連なっています。四季折々の美しい表情を楽しめる川棚地区は、風光明媚な湯治場としても知られていました。長府毛利藩十三代藩主・毛利元周（もうりもとちか）は、文久年間に川棚温泉を訪れた際、この地における美しい8つの風景を選んで「川棚八景」と名付けたと伝わります。

「川棚八景を構成する事象 事物」

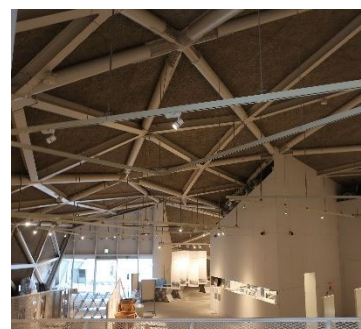
- ①東原の晴嵐（せいらん）：春の霞
- ②妙寺の晩鐘（ばんしょう）：沈む夕日と寺院の鐘楼
- ③柴崎の夜雨（やう）：夜中に降る雨の風景
- ④厚島の夕照（せきしょう）：夕日を反射した水面
- ⑤松谷の帰帆（きはん）：夕暮れに帆掛船が一斉に港に戻る風景
- ⑥飛来の秋月（しゅうげつ）：秋の夜の月
- ⑦葉中の落雁（らくがん）：広い空間を飛ぶ雁の群れ
- ⑧茶臼の暮雪（ぼせつ）：夕方から夜の雪の積もった山



※国土地理院地図を加工して作成

（５）下関市川棚温泉交流センター（川棚の杜（もり））

川棚温泉エリアの観光拠点を担う複合交流施設「下関市川棚温泉交流センター（川棚の杜）」。その設計にあたって建築家・隈研吾氏が掲げたコンセプトは、「豊かな自然と呼応するオーガニックな建築」でした。大小様々な三角形で構成された外観は、山裾から海へと延びる川棚のなだらかな地形に溶け込む有機的なデザイン。複雑な多面体が生み出す陰影に加えて、かすかに異なった３色の塗り分けを各面に施したことで、一日の光の変化に伴った多彩な表情を見せてくれます。さらに、外壁は「豊浦標準砂」や「柱のない土塀の蔵」など、豊かな土の文化を誇る川棚の「砂」や「土」の雰囲気を経験的に再現。その佇まいは、種田山頭火を魅せたなだらかな鬼ヶ城連山のように、アルフレッド・コルトーが愛した厚島のようにもあります。まさに、川棚の美しい自然を抽象化したフォルムと呼べるものです。建物の内部は、環境の連続性を建築内部にまで導くため、「コルトーホール」の愛称で呼ばれる大交流室や「下関市烏山民俗資料館」の、機能のまとまりを床のレベル（高さ）で造りながらも全体がひとつながりの空間となるよう設計されました。人々の集いと交流を促す隈氏ならではの独創的なアイデアが、隅々にまで息づいています。



山あいのランドスケープに溶け込む多面体形式の建築〈隈研吾氏談〉

川棚温泉でまず何より感じたのは、自然の力強さ・美しさです。訪れるたび、ふとした瞬間に、さすが山頭火が愛した場所だなと感心させられる自然の豊かさがあります。この「川棚の杜」は、そんな豊かな自然と呼応するような有機的（ORGANIC）な建築になることを目指して設計しました。20 世紀の旧態依然とした建築物では、どうもこれからの時代の社会や環境に対応することはできないのではないかとということが世界中でいわれはじめています。それぞれの地域の質や伝統を見直し、これからの 100 年の核となる建築をつくる。ここ川棚では、僕たちは自然の強さに、時代を超越した本質的な強さを感じ取りました。この「川棚の杜」は、地域を支える交流施設でありながら同時に鍾乳洞や山のような地形そのものであるような建築です。この場所で活動する人の記憶にいつまでも残り、今までにない文化の根が生えていくことを期待します。



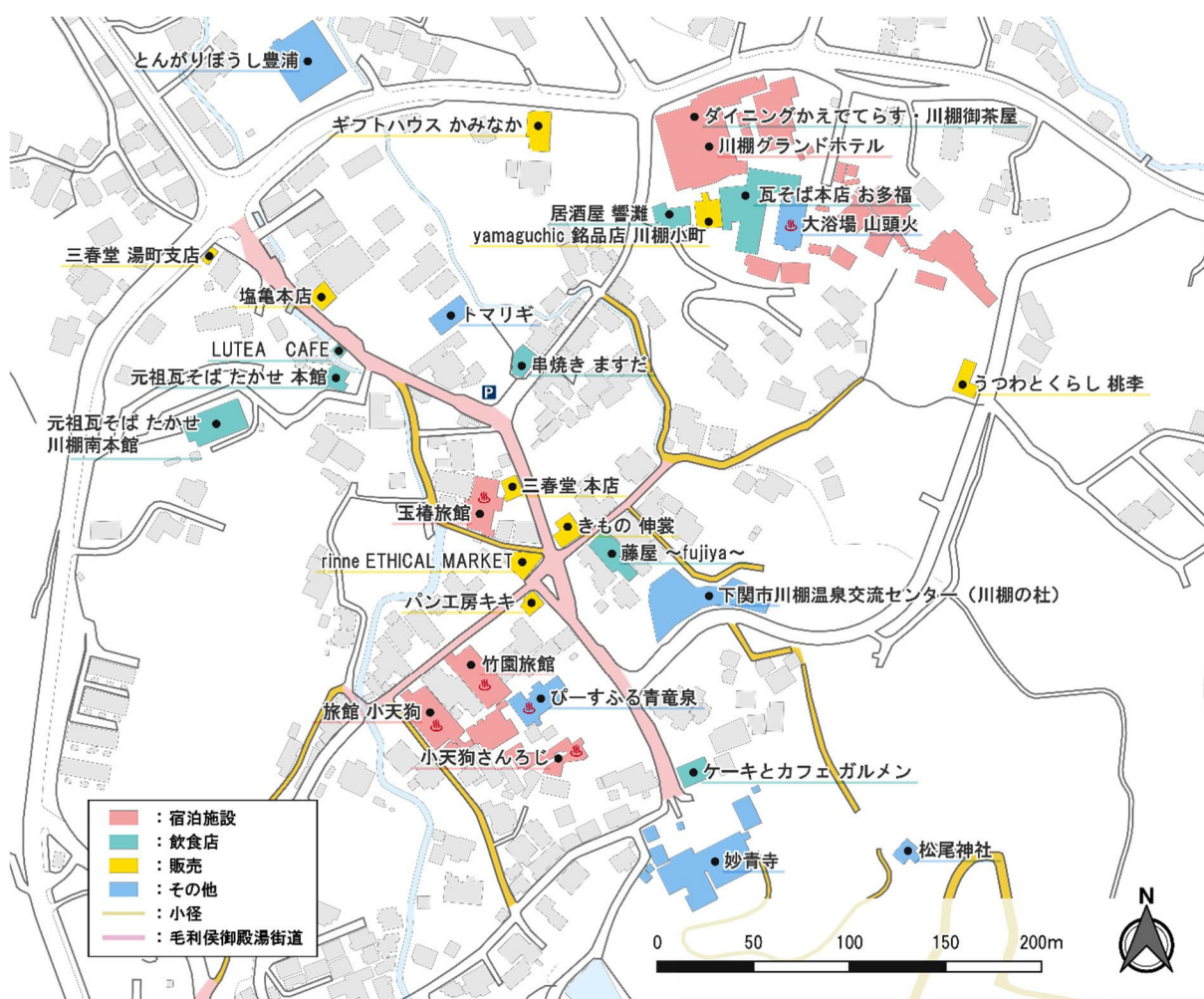
(6) 主要施設の分布

川棚温泉街における温泉を備えた宿泊施設は、5軒のうち4軒が毛利侯御殿湯街道沿いに集まり、最大の収容人数を持つ「川棚グランドホテル」は、温泉街の北東側に位置しています。

また、飲食店の分野では、川棚温泉名物瓦そばの「元祖瓦そばたかせ」や「瓦そば本店お多福」、川棚饅頭・瓦シューの「三春堂」など歴史ある店舗に加え、近年、パン工房やカフェ、食料雑貨を扱う店舗が続々とオープンしました。

さらに、新たな分野では、「トマリギ」や「藤屋～fujiya～」がシェアスペースを有する多目的な店舗としてリニューアルを果たすなど、これまでにない画期的な試みも展開されています。

日帰り温泉施設（公衆浴場）の「ぴーすふる青竜泉」も、長年にわたり、地域の皆さんや遠方からの来訪者に愛されています。



rinne ETHICAL MARKET



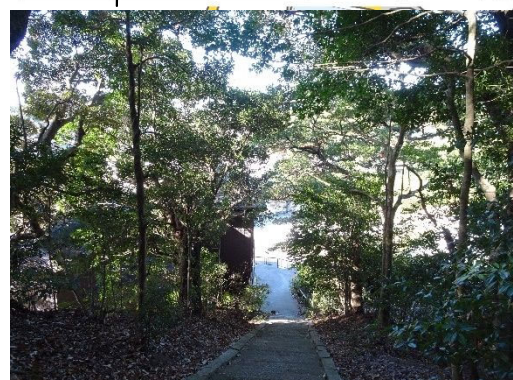
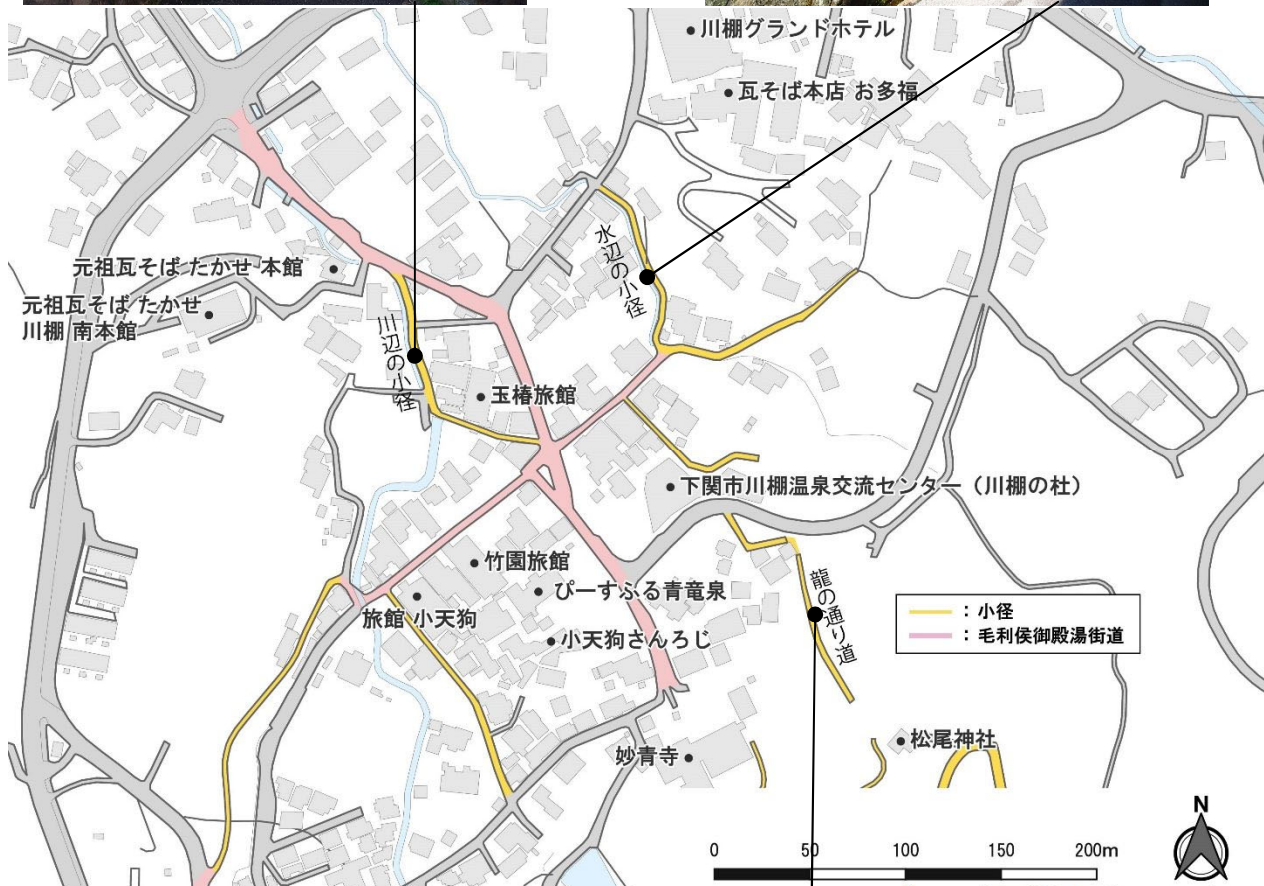
パン工房 キキ



きもの 伸裳

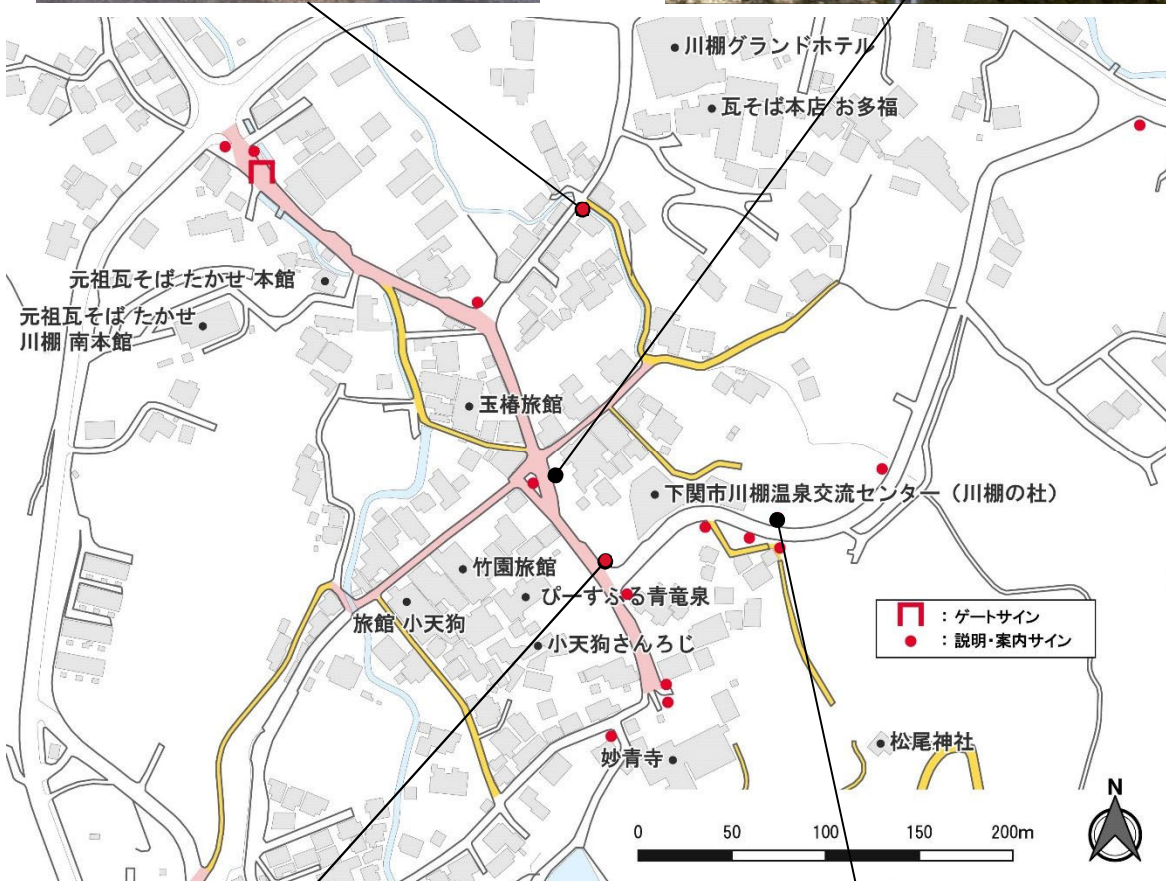
(7) 小径

毛利侯御殿湯街道は、その沿道に温泉旅館や新たな飲食店・雑貨店が出店し始めており、川棚温泉街のメイン通りとして機能しています。また、そこへ通じる小径の代表的なものとしては、「水辺の小径（遊歩道）」などがあります。他の小径は、裏通りの抜け道として、住宅地の中を通過しています。



(8) サイン等

川棚温泉街のサインは、毛利侯御殿湯街道と小径の周辺などに設置され、主に施設等の案内板や解説板として機能しています。その他には、道路の街灯やコルトーの銅像など、独特なデザインのサインがあります。



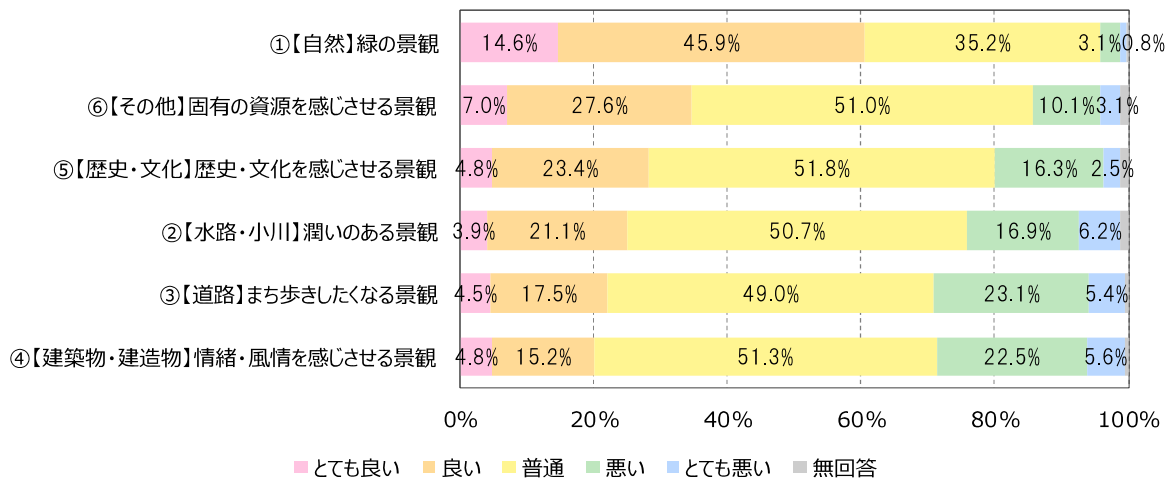
3. 川棚温泉エリアの住民意向

川棚温泉エリアにお住まいの方々を対象に、現状の景観に対するイメージや今後の景観まちづくりに対する意向を把握するため、アンケート調査を実施しました。

配布数 1,205 世帯（6 自治会）で、回収率は、29.4%（回答数 N = 355）でした。

（1）川棚温泉エリア全体の景観イメージ〈N=355〉

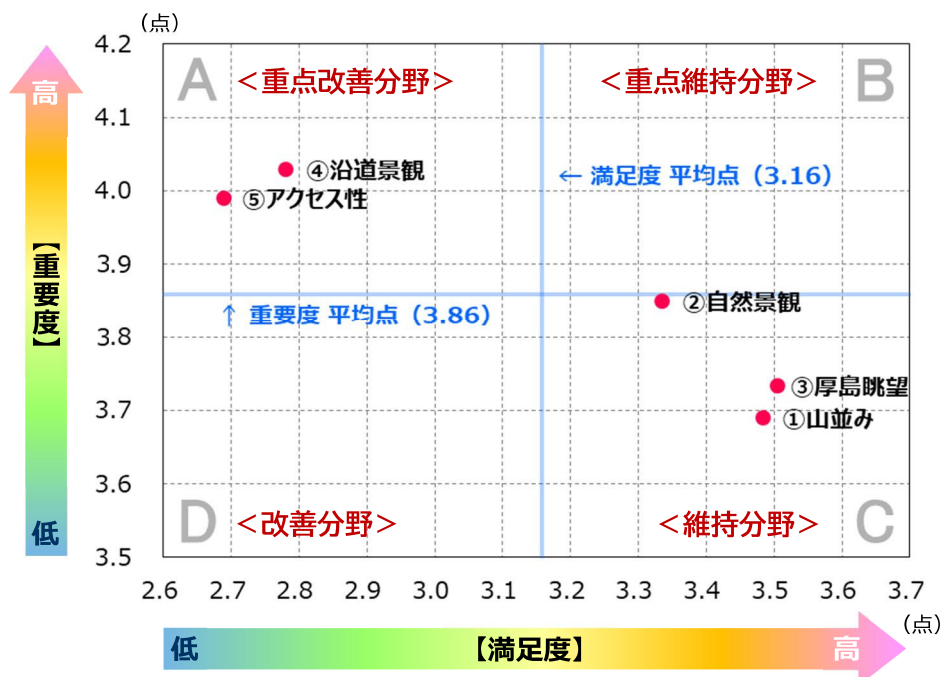
「①緑の景観」に対するイメージは、全体的に良い傾向です。しかしその一方で、「③まち歩きしたくなる景観」や「④情緒・風情を感じさせる景観」に対するイメージは、比較的悪い結果となりました。



（2）川棚温泉エリア全体の景観評価〈N=355〉

「④駅から温泉街へ至る沿道景観」、「⑤駅から温泉街までのアクセス性」への重要度が高い一方、満足度が低い結果となっており、今後重点的に改善していく必要があります。＜重点改善分野＞

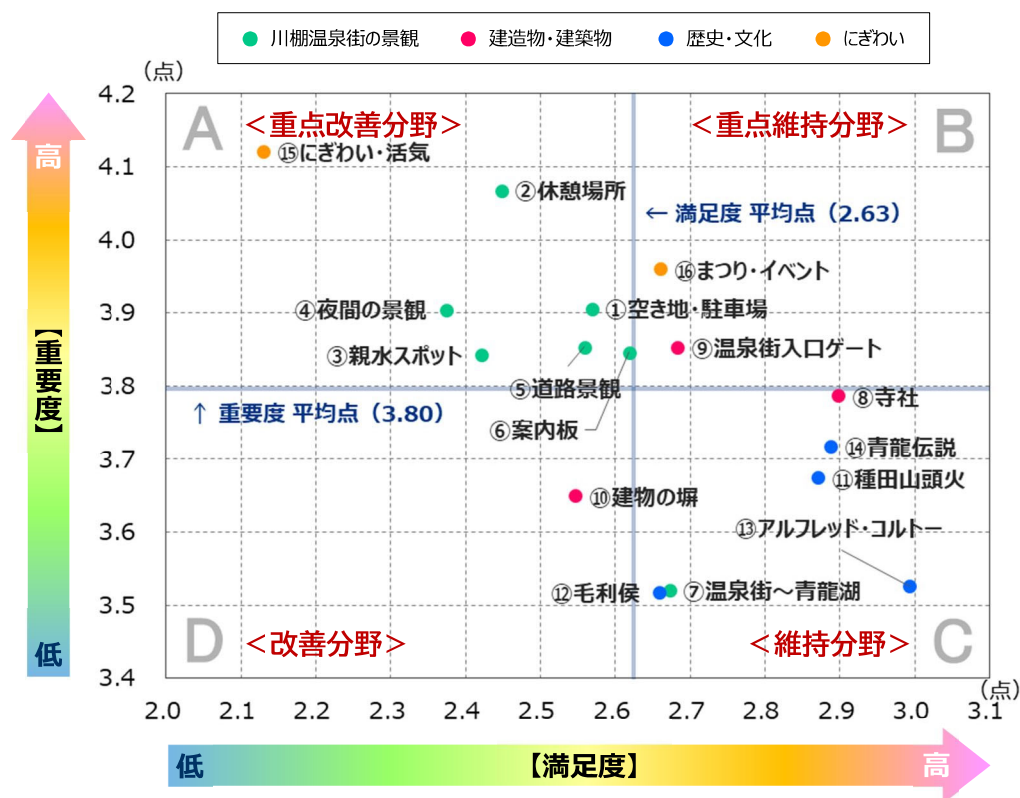
また、「①眺望できる山並み」、「②季節ごとに移ろう自然景観」、「③厚島の眺望」といった自然に関する満足度は高い一方、重要度が低い結果となりました。＜維持分野＞



(3) 川棚温泉街（まちなか）の景観評価〈N=355〉

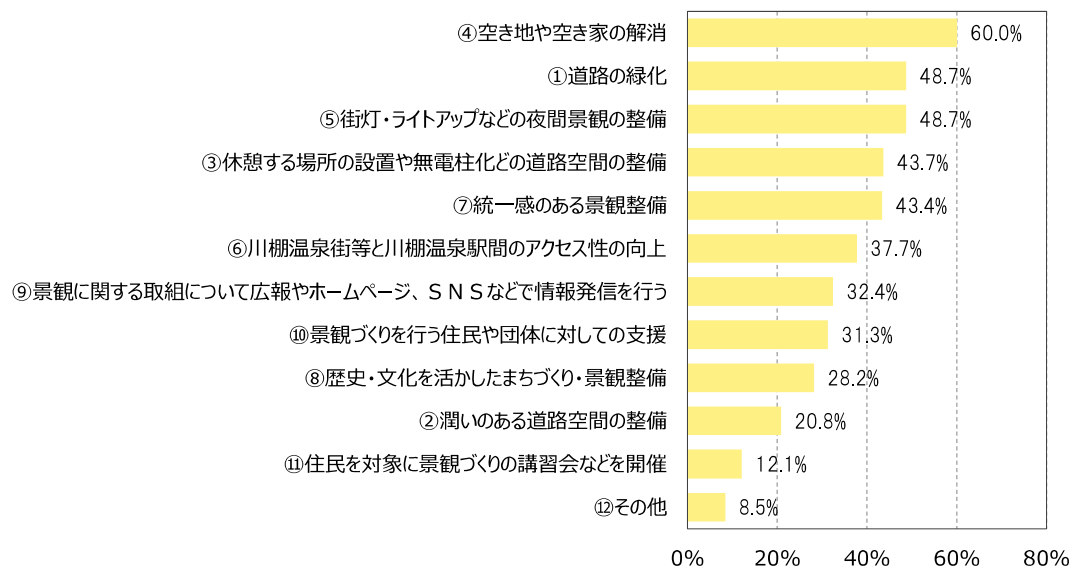
「⑮川棚温泉街のにぎわい・活気」、「②温泉街で休憩できる場所」、「④温泉街の夜間の景観」、「①温泉街の空き地や駐車場の点在、住居の混在など」、「⑤温泉街としての道路景観」、「③温泉街の親水スポット・水を感じられる場所」、「⑥温泉街にある案内板」への重要度が高い一方、満足度が低い結果となっており、今後重点的に改善していく必要があります。

また、「⑩建物の塀」については、比較的重要度が高い傾向にありますが、満足度が低い傾向にあり、今後改善していく必要があります。



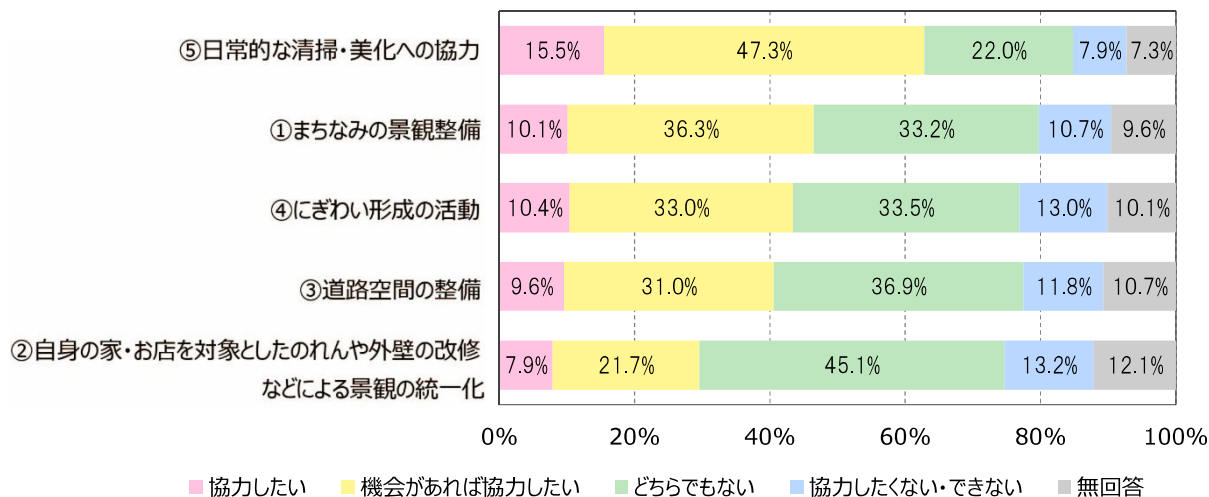
(4) 川棚温泉エリアの景観まちづくりで積極的に取り組むべきこと〈N=355（複数選択）〉

「④空き地や空き家の解消」が60.0%で最も高く、次いで「①道路の緑化」、「⑤街灯・ライトアップなどの夜間景観の整備」が48.7%となっています。

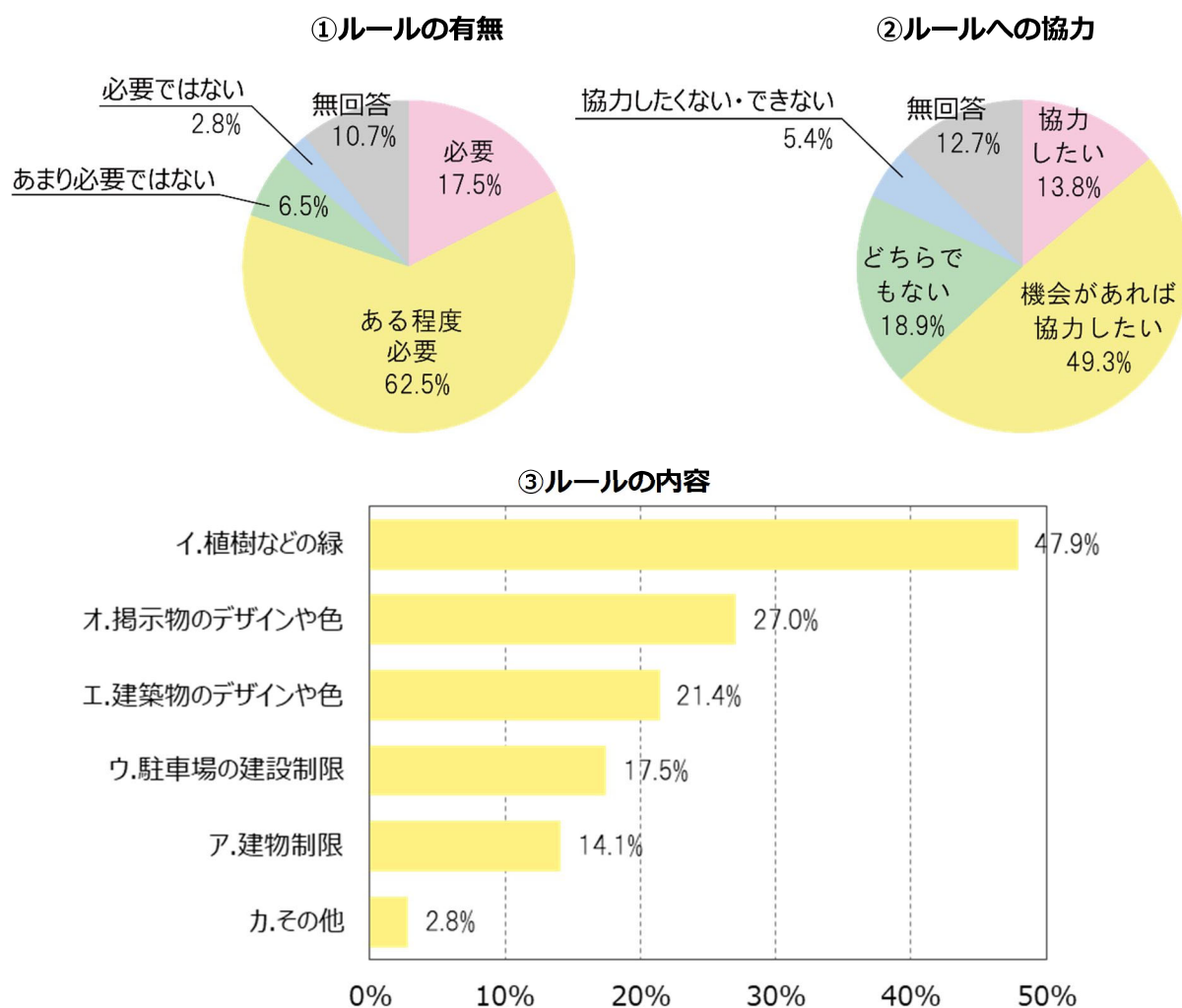


（５）今後の景観整備に対する協力意向 〈N=355〉

「協力したい」と「機会があれば協力したい」を合わせた割合は、「⑤日常的な清掃・美化への協力」が62.8%で最も高く、次いで「①まちなみの景観整備」が46.4%、「④にぎわい形成の活動」が43.4%でした。



（６）今後の景観ルールに対する意向 〈N=355〉



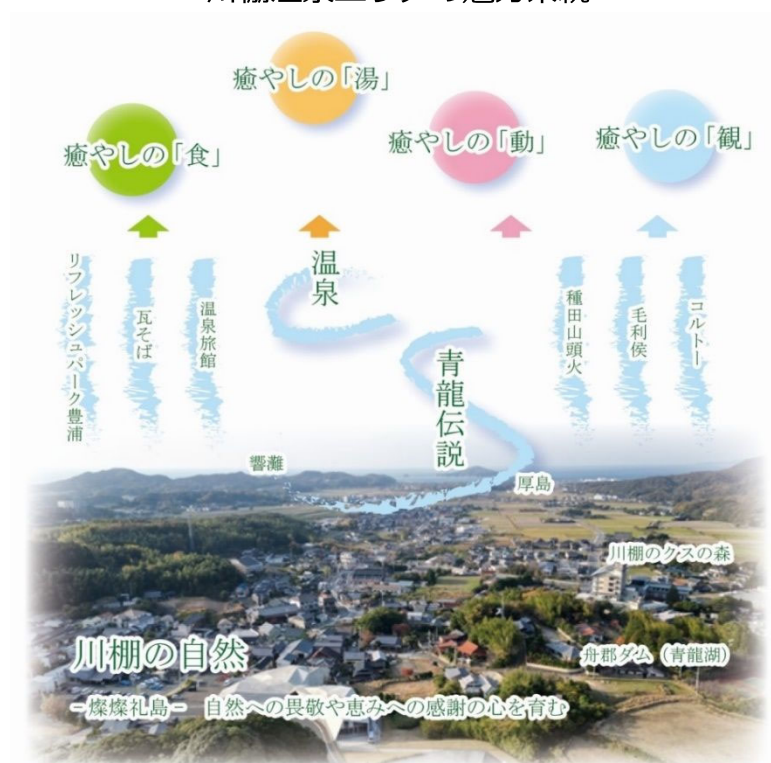
4. 景観に関する課題

(1) 川棚温泉エリアの魅力

川棚温泉エリアの概況や住民意向などを踏まえると、川棚温泉エリアの魅力を根底から支えているのは、やはり「**豊かな自然の恵み**」なのではないでしょうか。

だからこそ、山頭火やコルトーもその魅力に導かれてここを訪れ、何物にも代え難い心身の癒やしを享受できたことで、ここを終生の地・永住の地と感じたのだろうと考えられます。

川棚温泉エリアの魅力系統



しかし、温泉旅館が激減し、まちなかに空き地や空き家、空き店舗が目立つようになった今、豊かな自然の中で人々の文化や生活が形作ってきた「**大切なまちの景観**」が失われ、温泉街としての魅力が低下しつつあります。

次頁では、この問題にどう取り組むとよいかを考えていく上で、その判断材料となるよう、川棚温泉エリアにおける景観上の課題を4つに整理しました。



(2) 川棚温泉エリアにおける景観上の課題

自然は残っているものの、その他の温泉旅館や歴史遺構は多くが失われて視認できなくなっており、**残っているものを無理矢理引き立たせるだけでは、まち全体の魅力を高めていくことは困難な**状況です。

課題① 資源の一つひとつが必ずしも強くない

資源はあっても埋もれがち
単体で人を惹きつけるような
強烈な魅力は、川棚温泉エリアにはそぐわない



課題② 多くの資源が失われ、残ったものも散在している

歴史的な旅館建築、
草に覆われた展望台など
川棚温泉エリアの原風景が失われている



課題③ 負の資源が目立ち、見た目で損をしている

点在する駐車場と空き地・空き家・空き店舗
見えなくていいものが見えている
まちなかの散策やそぞろ歩きが見られない



課題④ まちを回遊するためのストーリーを見出しにくい

一部の商業施設は高い集客力を誇るが、
まちなかの人通りは少ない
散策やそぞろ歩きをしたいと思う動機付けが弱い



そのため、川棚温泉エリアの豊かな自然や現在辿ることができる**資源を丁寧に拾い上げる**とともに、**新たな工夫や表現**により、まちなかに洗練性・独自性・回遊性に富んだ魅力を創出していく必要があります。

5. 景観まちづくりの基本的な考え方

(1) 景観まちづくりで大切な4つの視点

① 風土に寄り添う

川棚温泉エリアが持つ地域固有の気候や自然、先人が紡いできた歴史、そして、地域にお住まいの皆さんが受け継いでいる文化との関わりを踏まえた景観づくりに取り組むことが重要です。

そうした取組を継続することで、「地域の方々が愛情と誇りを持って暮らせるまち」、「観光客が訪れたくなるまち」の実現が見えてきます。



② 場を生かす

川棚温泉エリアには、長い歴史の中で育まれてきた自然・温泉・まち・文化・食といった多様な資源が残っており、ここでしか体感できない非日常的な空間や時間があります。また、この地で暮らす方々の何気ない日常的な営みも、とても大切な風景の一部といえます。

そうした「非日常」と「日常」を景観づくりに生かしていくことが重要です。



③ 物語でつなぐ

多くの人を魅了する優れた景観には、その場で見えるものに背景や想いなどプラスアルファの要素が加わっていることが多々あります。そのプラスアルファを知ること、想像力が広がり新たな魅力に気付くこともあります。

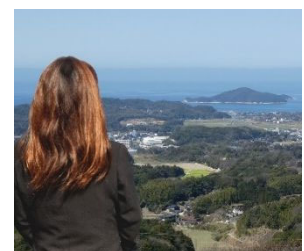
川棚温泉エリアでの体験や散策、休息を通じて、来訪者に癒やし・学び・驚き・感動などを感じてもらうには、その場所や空間に物語を添えることが重要です。



④ 地域で育てる

まちなかの景観は、自然と生まれるものではなく、その多くは人々の手によって創り出されるものです。また、そのためには、地域にお住まいの皆さんによる共創の取組が不可欠です。しかし、まちづくりでは、その主体が不明確になりがちで、一部の組織だけが取り組んだ結果、やがてその活動が途切れると、その時点でまちづくりが止まってしまうことがあります。

これからは、地域にお住まいの皆さんが、できることから景観まちづくりに関わり、将来にわたって途切れることのない取組を続けていくことが重要です。



(2) 川棚温泉エリアでの魅力の掘り起こし

①「豊かな自然」の魅力

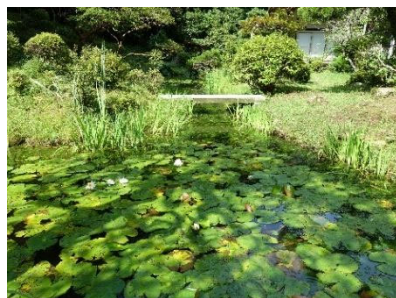
川棚温泉エリアでは、舟郡ダム（青龍湖）や響灘・厚島展望公園から山頭火、コルトーらが愛した山懷に抱かれる美しい地形を眺望することはできますが、まちなかでは自然と一体になって楽しめる場所を見つけにくく、せっかくの魅力を体感しにくい状況です。

例えば、縁側で虫の音を聞く、朝夕で違った風景を楽しめるといった、「自然を体感し、癒やしや感動を享受できる場所」を確保することが重要です。

他地域の事例



川棚温泉エリア



②「良質な温泉」の魅力

良質なラジウム泉でもある川棚温泉そのものは高い評価を得ていますが、まちなか（屋外）に温泉の姿が見られず、湯煙のような温泉街らしい雰囲気を楽しむことができていません。

温泉地ならではの風情を感じられる仕掛けや、パンフレット・案内板等で青龍伝説や怡雲和尚の伝承、温泉の効能などを紹介し、川棚温泉の発祥や成り立ち、癒やしの効果に愛着を持っていただくことが重要です。

他地域の事例



川棚温泉エリア



③「何気ない生活風景」の魅力

川棚温泉街は、温泉旅館の数が少なくなり、多くの一般住宅が軒を連ねる状況となっています。そうしたことから、観光地である一面と住宅地である一面とが混在し、全体的な統一感を演出することは、難しいのが現状です。

しかし、ちょっとした目隠しの工夫や玄関口の演出、夜の灯りなど、無理のない範囲で沿道の景観への気遣いを進めていくことで、まちなかに統一感が生まれ、温泉街としての佇まいを取り戻すきっかけにつながります。

他地域の事例



川棚温泉エリア



④「800年という歴史」の魅力

川棚温泉街には、古くからある旅館や寺社、景観に配慮した外構を備えた建物もありますが、その数は少なく、散在しています。また、駐車場や空き地、倉庫や空き家など、見た目の上ではマイナスに働く資源が点在し、歴史的なまちとしての雰囲気を変えていく必要があります。

例えば、毛利侯御殿湯街道の沿道に盛えたまちの風景など、長い時間と歴史を積み重ねてきたまちの記憶を感じられるような空間を整えることが重要です。

他地域の事例

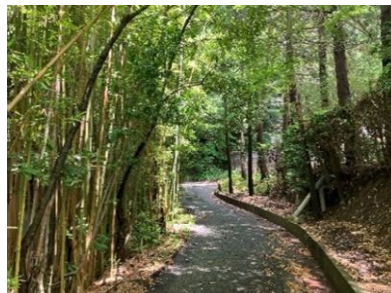


⑤「プラスアルファ」の魅力

川棚温泉街には、青龍伝説、山頭火の俳句、コルトーの音楽、瓦そば、隈研吾氏の設計による建築といった、豊かな自然や温泉に惹きつけられた人々によって生み出されたプラスアルファの魅力が存在します。しかし、宿泊客の多くは、旅館やホテルでの食事・入浴・宿泊だけにとどまり、それらの魅力を堪能することができない状況です。

例えば、まちなかのいたる所に、食、遊び、音楽、俳句、建築等といったプラスアルファの魅力を付加し、訪れた人々に感じてもらうこと、楽しんでもらうことが重要になります。

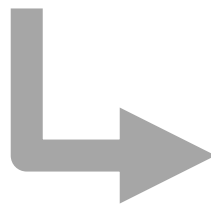
川棚温泉エリア



温泉街の中心部では、隈研吾氏の設計による「下関市川棚温泉癒やしの庭」の整備が計画されています。ここは、歴史的にも温泉街で最もにぎわいを見せていた場所でもあります。

この周辺を、再び地域の方々や訪れるの方々にとって居心地の良い空間に変えていくことが重要です。

川棚温泉エリア



— 川棚温泉エリアにおける景観まちづくりの基本的な方向性—

— 景観まちづくりで大切な4つの視点 —

- ① 風土に寄り添う ② 場を生かす ③ 物語でつなぐ ④ 地域で育てる

— 川棚温泉エリアでの魅力の掘り起こし —

- ① 「豊かな自然」の魅力 ② 「良質な温泉」の魅力
③ 「何気ない生活風景」の魅力 ④ 「800年という歴史」の魅力
⑤ 「プラスアルファ」の魅力

— 景観まちづくりで目指すもの —

- ① 「空間」 川棚温泉エリアの各ゾーンの魅力を磨き上げるとともに、ゾーン間を結ぶ動線や連続性・多様性を意識した景観まちづくりを目指しましょう。
- ② 「時間」 時間帯や季節感など、時間の流れや移ろいを体感できて、楽しめる景観まちづくりを目指しましょう。
- ③ 「活動」 身近な取組から徐々に活動を広げ、地域全体のつながりへと発展する景観まちづくりを目指しましょう。



6. 景観特性等を踏まえたゾーン設定

景観まちづくりの基本的な考え方や方向性、景観特性を踏まえた上で、川棚温泉エリアに6種類のゾーンを設定しました。これらのゾーンは、人々が行き交う軸＝「道」に主眼を置いて設定したものです。



（１）街道景観ゾーン

JR 川棚温泉駅から川棚温泉街を結ぶ約 1.6km の主要地方道県道豊浦清末線（青龍街道）を軸としたゾーン。駅からの来訪者が最初に目にする場所です。

（２）まちなか散策ゾーン

川棚温泉エリアの中央に位置し、複数の温泉旅館やホテルなどが立地しているゾーン。毛利侯御殿湯街道と繋がる小径も多く、川棚温泉への来訪者が多く訪れる場所です。

（３）交流にぎわいゾーン

下関市川棚温泉交流センター（川棚の杜）から舟郡ダム（青龍湖）までを繋ぐ道のうち、県道豊浦久野線までの通りを軸としたゾーン。県道からのアクセスが容易なことや、川棚温泉から舟郡ダムまでの主要動線となっていることから、今後、新たな店舗の立地やにぎわい創出が期待される場所です。

（４）歴史探訪ゾーン

妙青寺、松尾神社、国清山自然公園等が集まるゾーン。それぞれの場所が貴重な観光資源であり、川棚温泉の歴史や物語を学べる場所です。

（５）自然体験ゾーン

川棚温泉街からリフレッシュパーク豊浦までを繋ぐ主要地方道県道豊浦清末線を主としたゾーン。旧秋田山荘などの資源が分布し、森林浴など自然に多く触れられる場所です。

（６）絶景眺望ゾーン

厚島や川棚温泉エリア全体の風景を眺望できるゾーン。コルトーらが愛した川棚の素晴らしさを強く感じられる場所です。絶景眺望ゾーンは複数存在します。

7. 景観まちづくりのポイント

川棚温泉エリアの景観まちづくりを進める上で、実際に取り組むべきことは何でしょうか。

素晴らしい個々の資源をつなぎ合わせ、川棚温泉エリアの魅力を高めていくためには、どうすればよいでしょうか。

この章では、そのヒントとなるような景観まちづくりのポイントをお示しします。これらは、あくまでも一つの手法ですが、これらを通じて地域にお住まいの皆さんとともに、まちの風土や歴史、特性などを見つめなおし、景観まちづくりを考える際の一助になればと考えています。

このガイドラインを参考に、一人ひとりが少しずつできることから始め、皆で協力して川棚温泉エリアの魅力を底上げしていきましょう。

(1) 景観を構成する要素

景観の向上にあたっては、景観を構成する、素材、色、形、植栽といった点に気を配りながら、街並みを整えていくことが大切です。

素材

川棚温泉街は、豊かな自然に囲まれた温泉街です。このようなまちでは、コンクリートに代表される工業製品よりも、木、漆喰など自然を感じさせる素材を用いることが望ましいです。困難な場合でも、表面を加工したり、隠したり、小さくしたり、色々工夫してみましょう。



色

素材と同様、川棚温泉街では自然の景観と調和する色が望ましいです。まちなかでは、一つひとつの建物が主役を目指すのではなく、お互いが引き立て合えるよう、おとなしめの色（低明度・低彩度）を選択しましょう。



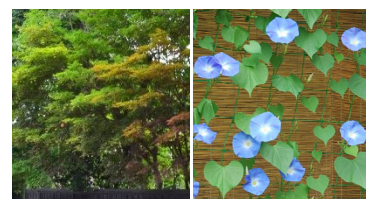
形

まちなかの建物は、奇をてらう必要はありません。新しく建物を建てる場合は、まずお隣りの建物と比べて、形や高さ、位置に違和感がないか考えてみましょう。幸い、川棚温泉街には歴史ある建物も残っています。それらを参考に、形などを決めていきましょう。



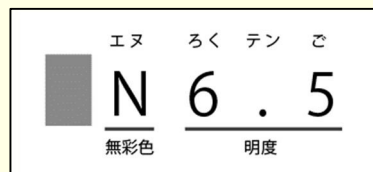
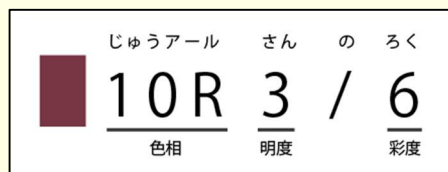
植栽

山々に囲まれた川棚温泉エリアですが、意外にもまちなかには緑が乏しい状況です。通りから見える植栽や庭木を大事にしましょう。植栽は、余計なものを隠したり、外観を立派に見せたりするだけでなく、緑を愛する人々の心を癒やすなど、多くの役割を果たしてくれます。



❖ コラム ❖ 色について

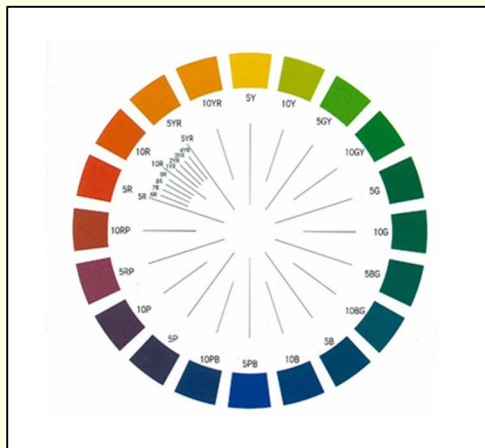
色の表現方法の一つとして「マンセル表色系」が一般的です。マンセル表色系は、色を“色相（色合い）・明度（明るさ）・彩度（鮮やかさ）”の3要素で構成し、それぞれの組み合わせによって体系的に色を表現しています。



色 相	色合い。赤（R）・黄赤（YR）・黄（Y）・黄緑（GY）・緑（G）・青緑（BG）・青（B）・青紫（PB）・紫（P）・赤紫（RP）を基本とする10色相。
明 度	明るさ。数値が大きいほど、明るい色を示します。1.0から9.5の数値で表します。
彩 度	鮮やかさ。数値が大きくなるほど、鮮やかな色を示します。色相・明度によって、最高彩度は異なります。

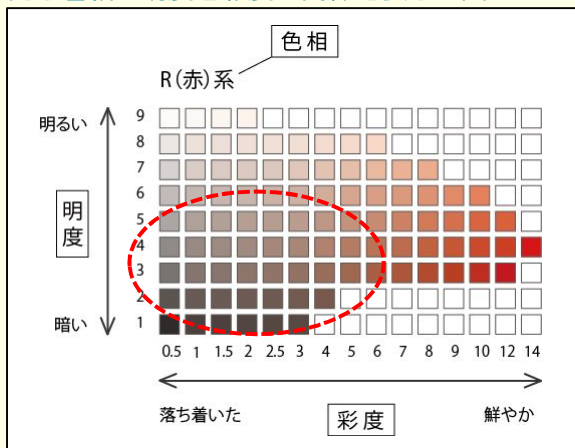
色相関

色相の関係を表した図



等色相面

同じ色相の明度と彩度の関係を表した図



明度や彩度の違いによる色調のことをトーンと言い、薄い、濃い、明るい、暗い等の言葉で表現します。環境と調和するのは、低明度・低彩度の色彩とされ、明度6以下・彩度6以下がおおよその目安といわれています。

周辺に自然が多い場所には、自然の風景と調和する色彩の選定が必要です。地域の自然物（土や砂、木や葉等）をイメージし、その場所にはどの色が合うかを考えて風景に調和する色彩を選択しましょう。

高明度（明るすぎる）・高彩度（鮮やかすぎる）の色は安易に使用しすぎないようにしましょう。



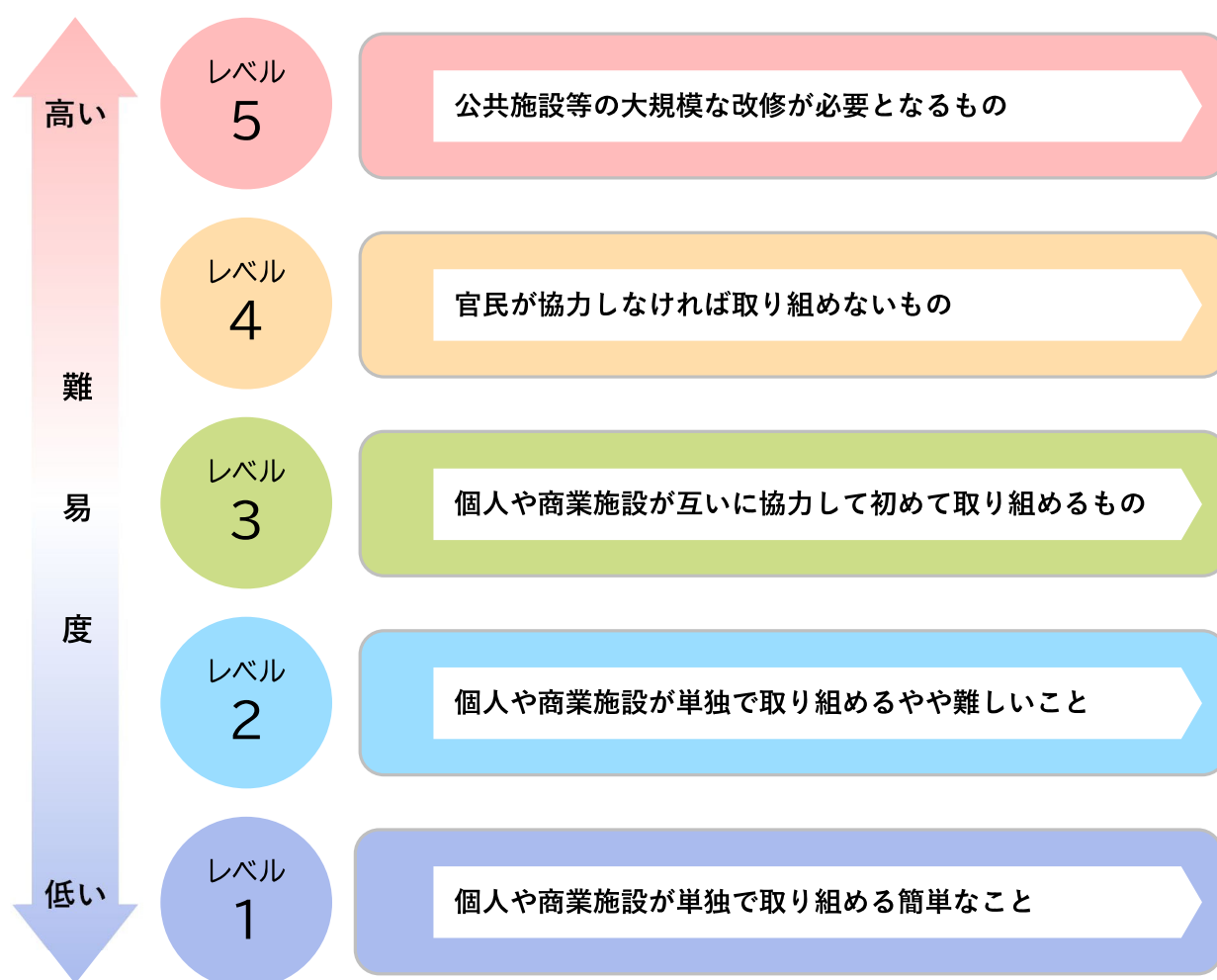
（２）取組（活動）のターゲットとスタイル

川棚温泉エリアの景観まちづくりを進めていく上で重要な要素を 9 種類に分類し、それぞれについて、留意点（ポイント）や参考事例を 29 頁以降で紹介します。

取組（活動）のターゲット		
共通	 建物	川棚温泉街エリア内の各建物
	 外構	川棚温泉街エリア内の各敷地の外構
	 駐車場・空き地	川棚温泉街エリア内の駐車場・空き地
個別	 エントランス・メインルート	青龍街道、毛利侯御殿湯街道等の主な道路
	 眺望スポット	響灘・厚島展望公園、舟郡ダム（青龍湖）等
	 小径・水辺	川棚温泉街の小径・水辺
取組（活動）のスタイル		
	 日常の活動	日常の清掃や身近な設え （のぼり、暖簾（のれん）、提灯等）
	 イベント	イベント・祭事の設え
	 ライトアップ	夜間の設え

(3) 取組（活動）のレベル（難易度）

景観を向上させる取組（活動）の中には、ちょっとした小物を使えばできるものから、多額の費用がかかるもの、個人単位でできるものから、行政と連携しなければできないものなど、様々な留意点（ポイント）があるため、その難易度に応じて、以下のとおりレベルを設定しました。





「建物」に関するまちづくりのポイント



まちを眺めてみると、まちの景観の善し悪しが建物の正面から見た姿（ファサード）によって左右されることに気がきます。建物はみな、誰かの所有物ですが、実は、まちの景観を形作る非常に大きな要素となっているのです。しかし、建物は、一度建てたり壊したりすると、長い年月にわたって手を加えられなくなることも多くあります。

そのため、建物を建築したり、改修したりするときは、通りからの見え方や街並み全体との調和などに十分注意することが必要です。



建物の大きさや形は 「向こう三軒両隣」と揃えましょう

レベル
3

～

レベル
4



▲通りからの距離が揃った街並み。
素材や色を調和させている

観光地の建物は、揃って見えることが大切です。通りからの距離、屋根の向きや勾配、窓の大きさ、壁の素材や色。こういった要素が揃うだけで、整った印象の街並みが生まれます。



▲窓の位置・形状を揃えている



▲屋根の向き・勾配を揃えている

川棚の風景と調和する 色・素材を選びましょう

レベル
2

～

レベル
3

観光地の建物は、素材や色を自然の風景と調和させることが大切です。コンクリート等の無機質な素材よりも、木や石、土などの素材を利用することで、背景の山々や川棚温泉エリアの風土に調和した景観を生むことができます。また、使用する素材の色を自然の色（アースカラー）に近付けることで、自然になじむ風合いになります。特に、赤や濃いピンクなどの色は目立ちすぎますので、避けるようにしましょう。

新しい建物でも、色や意匠・素材を工夫することで、街並みに調和することは可能 ▶



▲地元素材を活用した瓦屋根



▲木立の中に瓦屋根とアースカラーの外壁が見え隠れする風景

建物の正面（顔）には、 趣き（表情）を付けましょう

レベル
2

～

レベル
3

建物を通りから見たとき、一番目立つのは外壁です。そのため、単調な外壁があまりに連続していると、周囲の景観までが単調になってしまいがちです。これを避けるため、建物の正面（顔）に庇（ひさし）や小屋根を付けたたり、格子窓や欄干（らんかん）などを用いたりして、できるだけ趣き（表情）をつけましょう。これらは、プライバシーの保護にも役立ちます。難しい場合は、暖簾（のれん）や簾（すだれ）などで、見え方を調整しましょう。



▲ 1階は格子、2階は簾



▲ 白壁・格子・庇で揃った建物



▲ 柱が露出するように仕上げて、木の印象を強めている



▲ 壁をアースカラーと板材の上下に分離。障子窓で和の印象が強まる



▲ 窓の欄干に模様をつけている。パイプ類も含め、壁面と同じ黒色で塗装



「外構」に関するまちづくりのポイント



塀や門、庭、植栽など建物を囲う構造物全般を「外構」といいます。外構は、多くの面積で構成されるため、通りから見えやすく、まちの印象を左右する重要な要素でもあります。

無機質な外構が多いと、どこにでもある住宅地のような街並みとなり、温泉街らしい情緒風情を失ってしまいます。風土（自然・歴史・文化など）との調和を意識して、外構の在り方を考えてみるのが大切です。



塀は、視線等を遮りながらも、 人を温かく迎える印象に

レベル
2

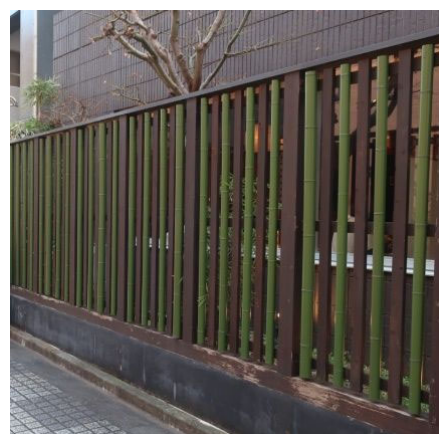
～

レベル
3

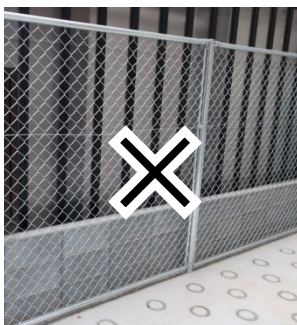
塀はもともと、視線を遮ってプライバシーを守ったり、敷地の境界を明らかにしたり、他者の侵入を防いだりするためのものです。そのため、その材質は頑丈ならどんなものでもいいように思えますが、コンクリートがむき出しの塀と、生垣や竹垣で囲んだ塀では、景観の良し悪しに大きな違いを生んでしまいます。温泉街らしい景観をつくるには、できるだけ木や石、土など自然由来の素材を取り入れることが望ましいのですが、それができない場合でも、工夫次第では、「人を拒む」ことが目的の塀を「人を温かく迎える」まちづくりの立役者に変えることができます。



▲竹で組んだ塀。和の風合いを強く感じさせる



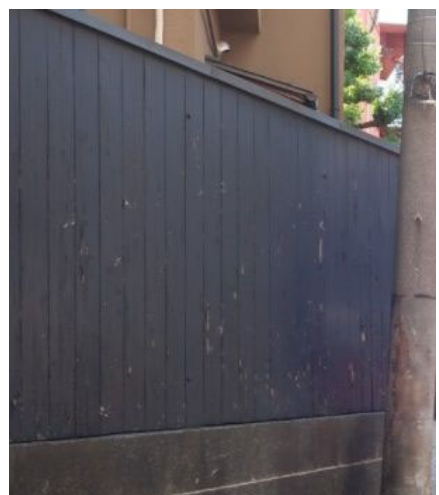
▲竹と木の格子。角度により店内の様子を見ることができる



▲金網など無機質な印象を強く感じさせるものは、できるだけ避けましょう



▲黒色に塗装したブロック塀。これだけでも効果あり



▲ブロック塀の上に黒い板を組んだ塀

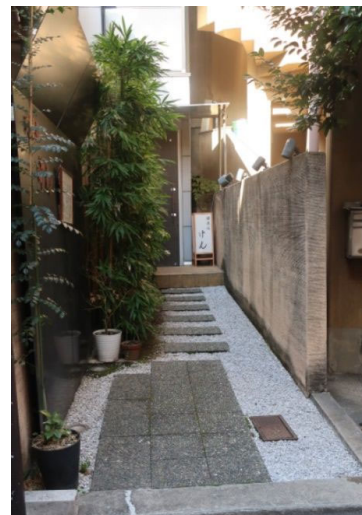
建物と道路の隙間は 「おもてなし」のスペースです

レベル
1

～

レベル
2

建物と道路の隙間を使って、人を迎える「おもてなし」の空間を創りましょう。アプローチやエントランス（入口・玄関）を飾ることで、「気持ちよく訪れてほしい」という家主の思いが、来訪者に伝わります。そのため、外構を飾るときは、可動式のものも含めて植栽やベンチを配置したり、和風の設えを施したりすることで、来訪者を歓迎する雰囲気演出することが大切です。



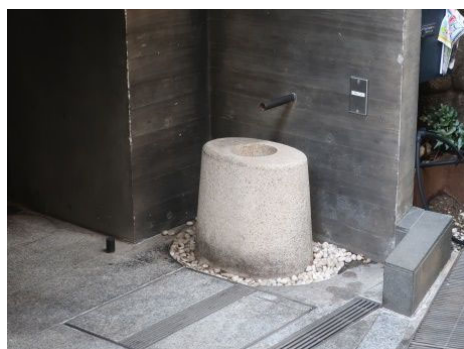
▲アプローチに置かれたテーブルやボトルが期待感を高める



▲簡単な竹組みと植栽



▲玄関回りの踏み石と植栽だけでおもてなしの空間を演出



▲玄関前の水鉢（花受け）

自然豊かな土地だからこそ、 まちなかにも緑は必要です

レベル
2

外構の植栽は、まちと自然を調和させる大切な要素です。植栽を直接見せたり、塀の隙間からのぞかせたりするほか、塀を植栽で代用するという方法も考えられます。植栽は継続的な維持管理が必要ですが、建物や街並みとともに育っていく植栽の管理は、日々の生活にも彩りを与えてくれるでしょう。



▲塀の上からのぞく庭木



▲丁寧に管理された生垣からは、まちを大切にする思いも伝わる



▲植栽は、彩りにも目隠しにもなる



▲狭小なスペースも、石と組み合わせれば、立派な外構になる

明らかな人工物はできるだけ隠しましょう

レベル
2

室外機や自動販売機などの人工物は、日常生活には欠かせませんが、過度に目立つと、そぞろ歩きや散策を楽しむ人を興醒めさせてしまうおそれがあります。このようなものはできるだけ隠し、せっかくの景観を損なわないよう注意しましょう。



▲木調の覆いで隠したゴミ箱とメーター



▲覆う方法が一番シンプル。色には気を付ける



▲目立たないように看板の裏に隠した室外機



「駐車場・空き地」に関するまちづくりのポイント



一般住宅、商業施設、公共施設等には、駐車場が併設されています。駐車場は必要なものですが、その平坦な空間は、空き地に見えてしまうことがあり、その多さや広さによっては、まちの印象を左右しかねません。ここでは、駐車場と空き地に工夫を施すことで、どのように景観が変わるかを見ていきましょう。



駐車場らしくない駐車場にしましょう

レベル
2

～

レベル
3

アスファルトやコンクリートで造ることの多い駐車場は、殺風景な印象を与がちです。舗装をナチュラルカラーのものにしたり、周囲にちょっとした植栽を用意したりといった少しの工夫で、景観に対する印象は大きく向上します。



▲緑を組み込んだ舗装



◀石畳風の舗装は、自然や和風の景観との親和性を高める

駐車場は、使い方次第で広場にもなります

レベル
2

～

レベル
3

広い駐車場は広場としても使えます。スペースに余裕がある場合は、舗装や植栽を工夫することで、自動車が駐まっていないときの雰囲気を一変させることができます。

駐車場の一角に遊歩道や花木があれば、憩いの空間に▶



▲舗装をインターロッキングにすることで広場に



▲駐車場を囲むように配置した植栽

駐車場や空き地を 目立たせない工夫をしましょう

レベル
2

～

レベル
3

通りを歩く人が、車のない駐車場や空き地を見かけると、寂しい印象を持ちかねません。建物と一体的な駐車場にする、裏通りに入口を配置する、道路沿いに植栽を配置して隠すなどの工夫をして、駐車スペースが目立たないようにしましょう。殺風景な駐車場や空き地は、まちを歩く人にとって興味の対象ではありません。空き地についても、できるだけ沿道に緑やベンチを置くなど、有効な活用方法を皆で考え、実践することが大切です。



▲建物と一体型の車庫



▲樹木や盛土で通り側から車両を見せない工夫



▲一般住宅も、木製の可動柵で車の印象を軽減



▲植栽のおかげで駐車場の出入口や車が目立たない。
茶色系の舗装は、周辺と調和しやすい



▲駐車場のプレートや柵を木調のデザインで統一



▲植栽や看板で駐車場の殺風景な雰囲気が軽減される



「エントランス・メインストリート」

に関するまちづくりのポイント

JR 川棚温泉駅から川棚温泉街までの県道や、その先の妙青寺に至る市道は、温泉街を訪れる人の多くが通る、まちのエントランス（入口）であり、メインストリートです。ここで目にする景観は、まちの第一印象となり、まちや旅行の印象を大きく左右することになります。このような特別な場所では、何に気を付けるとよいでしょうか。



立ち寄りやすい店先づくりを心がけましょう

特に多くの人が行き交うメインストリートでは、旅館や店舗などが立ち寄りやすい店先にすることが大切です。例えば、宿の歴史を紹介する展示、店の商品を陳列するディスプレイなどは、興味を惹き、立ち寄りたくなる心理効果を生みます。



▲店先にベンチやテーブルがあると、おもてなしの心が伝わる



▲緋毛氈（ひもうせん）や木製の置台を用いた商品陳列と店の紹介



▲店先に置かれた名物のからくり人形

せっかくのイベントは、目立つ場所で開催しましょう

まちのエントランス（入口）やメインストリートは、最も目立つ場所です。にぎわいを生み出すイベントや祭事は、できるだけこのような場所で行い、「来てよかった」と感じさせるような雰囲気をもたらし、一人でも多くの来訪者に伝えるようにしましょう。それが難しい場合は、イベントや催事に関連する飾り付けや案内を行うだけでも、誘客効果は大きく高まります。



▲ストリートを使ってできるイベントは多くある

◀特別な照明や設備は、エントランスやメインストリートに配置すると効果的

レベル
5

特別な場所には、特別な設えを配置しましょう

まちのエントランス（入口）やメインストリートは、お客さまを迎える特別な場所です。周りの景色との調和を図るために、植栽や天然の石などアクセントになるものを配置することで、特別感が生まれます。川棚温泉エリアには、温泉街らしい、自然や和風のイメージや設えが調和します。



▲目に付きやすいまちの「かど」に植栽を配置すると、癒やしのアクセントになる



◀天然の石など自然由来のものを取り入れたメインストリート

❖ コラム ❖ 移動手段

私たちが用いる移動手段は、徒歩・自転車・自動車・鉄道など多種多様です。通常、移動にかかる時間は無駄なものとして考えられがちですが、観光地においては、移動手段を工夫することで、移動そのものが楽しみになることもあります。

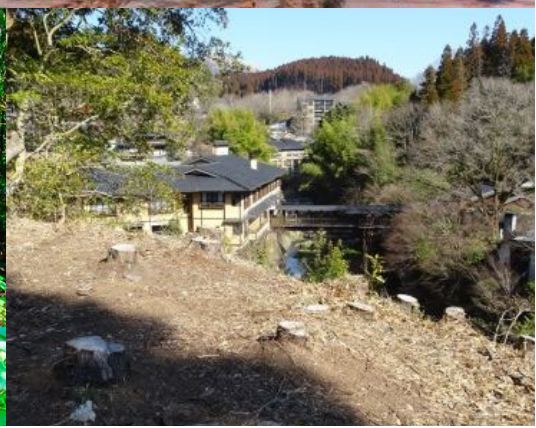
例えば、駅から旅館まで馬車で移動したり、人力車で観光案内を受けながら移動したりといった、日常では得難い体験を提供することができれば、観光地としての魅力と評価が大きく高まるでしょう。





「眺望スポット」に関するまちづくりのポイント

眺望スポットは、見たままの光景が人々の記憶や撮影した写真などに残り、口コミや SNS で拡散されていく重要な場所です。「また観たい・行きたい」と感じる景色や理由は十人十色ですが、様々なニーズに応える多様な眺望スポットをつくるのが、川棚温泉エリアのリピーターを増やし、まちのにぎわいを生むことにつながっていきます。



分かりやすい眺望スポットをつくりましょう

レベル
3

～

レベル
4

見晴らしのよい場所には、誰もが行きたくなるものです。「ぜひ、ここから観てほしい！」という位置を決めて周囲を整え、その場所が素晴らしい眺望スポットであることを積極的に伝えることで、訪れた方々に「思い出」を残してもらいましょう。



▲眺望スポットを示すフォトフレーム



▲過去の眺望写真を並べて、景色の変化や時の流れを感じてもらう工夫



▲眺望を維持するためには、木を切ることも

眺望スポットまで安心してたどり着ける ルートをつくりましょう

レベル
3

～

レベル
4



▲安全に歩ける階段と手すり



▲自然と調和した木道



▲到達までの距離を示すサイン

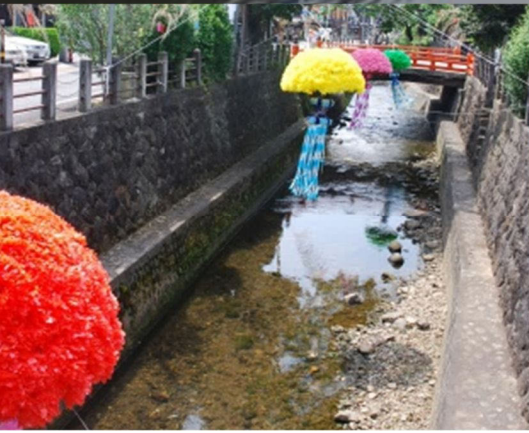
眺望スポットの多くは、山の上など高い場所にあることが多いので、一人旅でも安心して歩けるルートが必要です。道中で不安に駆られることなく、あきらめずに登って行けるよう、安全性を確保するとともに、到達への期待がふくらむよう、案内サインや通路・階段・手すりなどを整備することが大切です。



「小径・水辺」に関するまちづくりのポイント



川棚温泉エリアは、自動車が頻繁に往来するメインストリートだけでなく、路地のような小径や、湯町川などの水路、青龍湖やため池などの水辺に恵まれています。小径は、散策やそぞろ歩きをするにはもってこいの空間で、そこでは、ちょっとした探検気分を味わえます。また、川・湖・池は、貴重な水辺の空間として、癒やしの時間を与えてくれます。すみずみまで川棚温泉エリアを楽しんでもらうために、小径や水辺の空間づくりを工夫していきましょう。



訪れる方に安心して まちなかを探検してもらいましょう

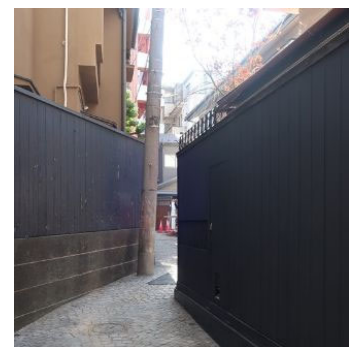
レベル
3



▲整った舗装・外構や案内板がある
と、「通っていいところ」である
ことが分かる



▲地域性を感じさせる
ネーミングも大切

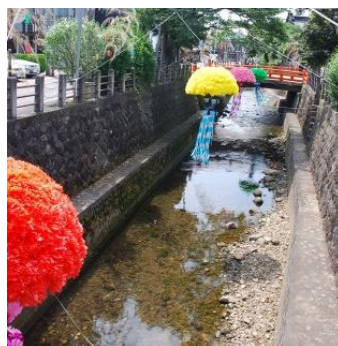


▲先の見えづらい小径
は、「この先には何か
あるのか」という期待
を抱かせる

小径や水辺を際立たせるラインを描きましょう

レベル
3

小径や水際に沿って、ライトやフラワーポット等を設置するだけでも、何気ない路地や川の存在に気付くきっかけになるかもしれません。



▲川の上は直線的に空いているので、イベント時などに活用するとよい
(利用には河川管理者への手続きが必要)



▲水辺に沿って明かりを置くと、
光の反射を利用して印象的な水
際線を強調できる

水を感じる仕掛けを設けましょう

レベル
2

～

レベル
4

川棚温泉エリアでは、小さな水路がまちなかを流れていますが、その存在を感じることはあまりありません。それなりの深さがあるため、水面に近付けないところもありますが、川や水にちなんだ設えを置くことで、水を感じる空間にすることができます。



▲水面と木々は、よく馴染む



▲水辺にデッキとイスを置けば、ゆっくりと過ごせる場所に



▲泳ぐ魚が水の清らかさを感じさせる



▲可能なところでは、水辺に降りられる場所を

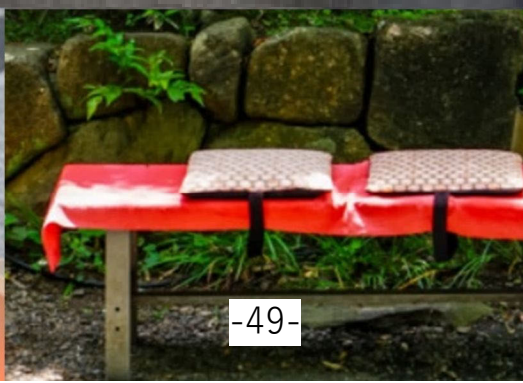


▲夜景用の飾りは、水面に映るため、効果大



「日常の取組」に関するまちづくりのポイント

まちづくりは、建物の建設や道路の整備といった大規模な取組だけで進んでいくわけではありません。幟（のぼり）を立てること、掃除をすること、そういった一人ひとりの日々の取組は小さいものですが、絶えず皆で続けていくことで、やがては川棚温泉エリアにしかない魅力ある景観を生み出していくことでしょう。

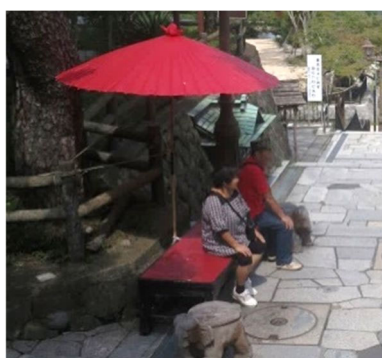


比較的手軽な小物を使ってまちを飾りましょう

レベル
1

～

レベル
3



▲野点（のだて）傘や緋毛氈（ひもうせん）の床几（しょうぎ）は、観光地のイメージを強調する



▲のぼりは、比較的手軽に設置できるツール。派手すぎる色やバラバラのデザインは、できるだけ避ける



▲竹竿を使ったのぼりは木造建築とも調和する



▲自然由来の色だと、洋風の名称でも和の雰囲気合う



▲木枠とモノトーンのデザインが施された袖看板と置き看板



▲外壁を汚れから守る竹製の犬矢来（いぬやらい）もまちの雰囲気を引き立てる



▲日よけ暖簾や和傘は、定番の小物。日よけ暖簾にロゴや店名などを入れると、看板代わりになる



▲商品看板やメニューも、布製や木製で周囲の景観や雰囲気となじんだものにする



レベル
1

毎日のお手入れや掃除も、立派な「まちづくり」です



街並みは皆で作っていくものと捉え、自分一人でもできることを考えてみましょう。庭のお手入れ、道路の掃除、草刈り、ごみ拾いなど、ちょっとしたことで、まちが美しく変わっていく大きなきっかけになります。

◀庭のお手入れも、立派なまちづくりの一つ

レベル
1

植木鉢（プランター）の素材や色を揃えましょう

庭先に植木鉢（プランター）を置いている方も多いと思います。緑を増やすためによいことであり、お手入れをすることで、自然やまちにも愛着が生まれます。しかし、あまりに多くの植木鉢を並べたり、プラスチック製や真っ白なプランターを用いたりしては、温泉街らしい景観には馴染みません。陶製や木製の大きめのものを用いることで、周囲との調和や鉢の統一感が生まれ、植栽もより引き立って見えることでしょう。



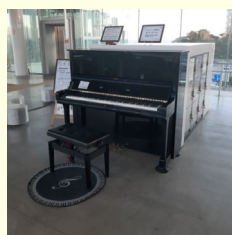
▲土を感じさせる陶製の植木鉢。
路面の色に合わせる工夫も

❖ コラム ❖ 「楽しみ」を引き出すまちづくり

近年、まち自体を積極的に楽しんでもらおうと、まちなかの一画で様々な活動の場を提供する動きがさかんです。

代表的なものには、道路や敷地内に人工芝などを敷いて即席の広場を創り出し、そこでおしゃべりをしたり、フリーマーケットをしたりする、道路のオープン化と呼ばれるものがあります。その他、まちなかでの音楽フェスティバルや、ピアノを置いて自由に弾いてもらう「街角ピアノ」など、「音」に関する活動も多くあります。

行政と市民が協力して、人工芝、ピアノ、遊具、ベンチなど、色々なアイテムをまちなかに配置して、まち自体を楽しむ活動を引き出していくことが、まちのにぎわいづくりに有効です。



「イベント」に関するまちづくりのポイント



川棚温泉エリアでは、「川棚温泉まつり」などの祭事や「盗餅（とへ）」などの伝統行事が受け継がれています。地域の風土に根差したこれらのイベントは、多くの人を惹きつけ、人と人を結びつけ、お店やまちのファンを増やす貴重な機会です。

イベントの開催には多くの労力や財源が必要ですが、せっかくの好機を効果的な景観まちづくりにつなげていくにはどのような方法があるのでしょうか。



イベントの趣旨やテイストを 「まちのかたち」に取り込みましょう

レベル
1

～

レベル
3

祭事や伝統行事のほか、マルシェや音楽イベントなど人が「行きたい」と思うイベントを、定期的に同じ場所で開催することによって、その存在や魅力が次第に周知され、地域の一部となっていきます。せっかくイベントを開催するのであれば、イベントの会場だけでなく、まち全体を積極的に飾っていくのはいかがでしょうか。そうすることで、強力なアピールになりますし、飾られたまちなかが写真映えする景色になれば、集客効果が大きく高まるきっかけになります。



▲まつりにあわせて紅白の飾り幕を設置。ハレの雰囲気だけでなく、地域の連帯感も高まる



▲七夕にあわせて笹飾りや朝顔を各戸が飾ることで、来訪者を温かく、楽しく迎えるにぎやかな雰囲気を演出



▲「奈良燈花会（とうかえ）」では、夏の10日間だけ奈良公園の周辺にろうそくを並べて幻想的な雰囲気を演出。始まったのはわずか20年ほど前。NPOが運営し、現在では、県内各所で類似のイベントが開催されるほどに

季節感のある風習が 独特な風景を生み出します

レベル
1

～

レベル
3

日本では古来から、季節と関連の深い行事や地域の気候に合わせた生活様式を育んできましたが、特に都市部では、そのような風習はほぼ失われています。季節感を得られる伝統的な風習や当時の風景を改めて見つめ直すことで、川棚温泉エリアの魅力向上につなげていきましょう。



▲香取市佐原の「軒菖蒲（のきしょうぶ）」は、端午の節句に菖蒲の葉を軒先につるす風習。伝統的な和風建築と調和する



▲黒川温泉のとうもろこし。かつて牛、馬等の飼料として耕作していた歴史を伝えるもので、現在は、飾りとして吊るしている



▲三島市の「梅の土用干し」。夏の土用時期に行われる梅干しづくりの工程をまちなかで見ることができる

❖ コラム ❖ 事例の紹介①

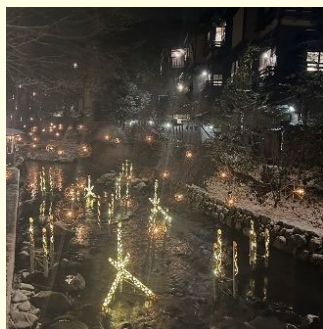
黒川温泉（熊本県）では、温泉地全体を一つの旅館に見立てた「黒川温泉一旅館」のコンセプトを掲げ、①入浴手形の導入、②景観づくり、③共同資源の活用に取り組んでいます。

宿泊客は入浴手形を使って他の宿の露天風呂を利用できることから、「露天風呂と言えば黒川温泉」というイメージとブランド（＝名物）が作られました。入浴手形の製作は、地域の老人会が担っています。

景観づくりの面では、温泉街を流れる川を中心とした里山のような景色を生み出すことを目指し、建物は和の雰囲気を出すように屋根や外壁などの色彩を統一したほか、裏山に2万本の木々をあえて不揃いに植樹し、自然な緑の景観を生み出しています。



▲入浴手形。累計300万枚を売上げ、地域の重要な収入源



▲「湯あかり」では環境維持のため間伐した竹材を活用

それらを実行するため、旅館組合の組織は、「看板班」、「環境班」、「企画広報班」に分かれて活動しています。各旅館の看板や、各旅館が貸し出す傘・雪駄のデザインも統一したほか、入浴手形についても、グループで利用できる手形や地域通貨としての手形など、常に新しいものが考案されています。

また、地域の資源を活用したイベントの面では、温泉街の閑散期に開催するライトアップイベント「湯あかり」や、朝に採れた野菜を農家の人たちが提供するイベント「朝ピクニック」があります。



▲黒地に白文字の看板。温泉地内でデザインが統一されている



「ライトアップ」に関するまちづくりのポイント



川棚温泉街の来訪者は、その多くが夕方以降をまちなかで過ごします。そのため、夜の景観づくりが非常に重要になります。

夜の景観は、言い換えれば明かりの景観です。とはいえ、単に明るければよいというわけではありません。暖色系の柔らかな明かりや建物の中から漏れる光で、人々の営みや生活感を演出し、来訪者に暖かみや安心感を伝えましょう。



観光資源を目立たせるために ライトアップをしましょう

レベル
1

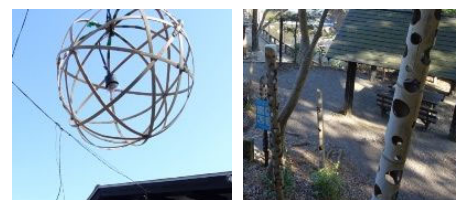
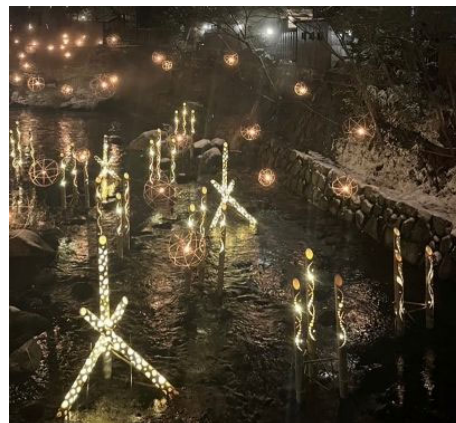
～

レベル
3

夜、まちを散策する来訪者に川棚温泉エリアの観光資源をスポット的に見せるには、ライトアップが有効です。寺社や大樹などの観光資源をライトアップすることで特別感を演出すれば、資源としての魅力と来訪動機を高めることにつながります。



▲建物・構造物・樹木などの細かな凹凸や質感を浮き出させるライトアップが効果的



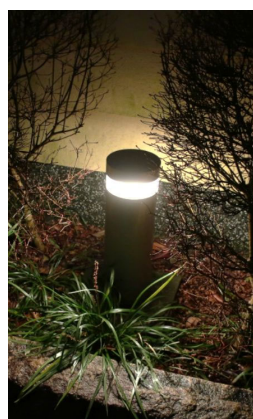
▲水辺に設置した竹製の簡易照明。竹に開けられた穴からあふれた光が様々な模様を描く

街並みを間接照明で照らしましょう

レベル
1

～

レベル
3



▲植栽の中から照らす照明と塀を照らす間接照明。配置や当て方を工夫し、光源が直接視界に入らないようにしている



まち全体の夜間景観は、街灯の明かりと、店舗や外構、塀などを照らす明かりが組み合わせあって構成されます。これらの照明についても、暖色系の色にするほか、壁面に当てたり植栽の中から照らしたり、間接的な当て方をしてはいかがでしょうか。そうすることで、暖かく柔らかな印象を与えつつ陰影をしっかりと強調でき、洗練された雰囲気演出することができます。

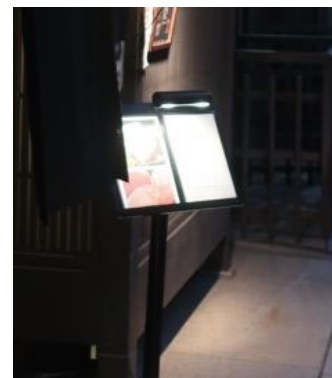
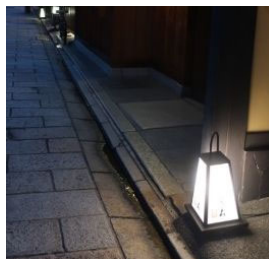
レベル
1

簡易な明かりを灯しましょう

提灯（ちょうちん）や行灯（あんどん）など、夜間に活躍する小物も多くあります。看板を照らす照明なども含め、これらの明かりは、店や宿の存在を強くアピールしながら夜間景観を構成します。また、日中においても、和の雰囲気醸成に役立つ重要な要素です。



▲店の存在をアピールする提灯や行灯

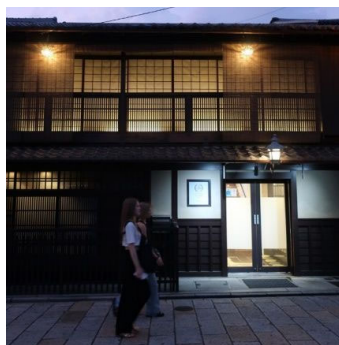


▲看板やメニューなどの照明は、外照式の方が強すぎず心地よい

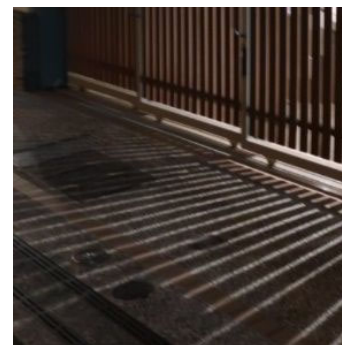
建物の中から漏れる明かりが
夜の景色を彩りますレベル
2

▲明かりは人の存在感を伝える

まちなかでは、照らすための明かりだけでなく、建物から漏れる室内の明かりも夜の景観を構成する要素です。建物からの明かりは、人の存在や活動を感じさせ、にぎわいや安心感を伝えます。このような景観をつくるためには、適度な光の抜けがある格子戸や障子を用いるなど、建物・外構の作り方に留意する必要があります。



▲格子窓や障子は、適度に室内の明かりを屋外に伝える



▲漏れる明かりが格子の影模様を美しく描く

照明は日中の見え方にも気を付けましょう

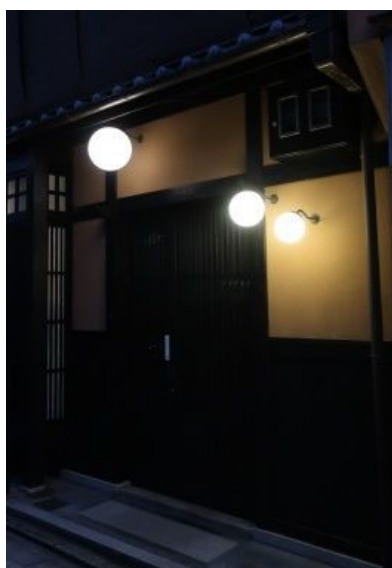
夜間を照らす照明も、日中はひとつの器具として見えています。街灯や玄関灯など、いずれの照明も、日中の景観に配慮して、デザイン性に優れた器具にするか、あまり目立たない位置に置くといった配慮が必要です。



▲日中も周辺の景観との調和を乱さない石造りの照明



▲デザイン性に優れた店頭照明



▲植栽の中に照明を配置すれば、日中に目立ちにくくなる

❖ コラム ❖ 事例の紹介②

長野県小布施町では、景観を意識した町民が、歩調を合わせて「花」のまちづくりを展開。この町では、江戸時代から続く、民家の庭に自由に出入りしてよいという「お庭ごめん」と呼ばれる慣わしがあり、これに倣い、各家庭の庭を開放する「オープンガーデン」が開催されています。

まちなかでは、民家の庭先、喫茶店などを通り抜ける小径がオープンガーデンを繋ぎ、場所によっては、まちなかの舗装と同じ栗木敷きで舗装されているなど、土地所有者による工夫が随所に見られます。

「お庭ごめん」のもととなった「外はみんなのもの、内は自分たちのもの」という精神を受け継ぎながら、住む人の利便性を保つとともに、訪れる人たちを和ませる空間づくりにも注力し、落ち着いたまちなみを創り出しています。



◀案内板は「どうぞお入りください」の目印。自由に庭を鑑賞できるようになっている

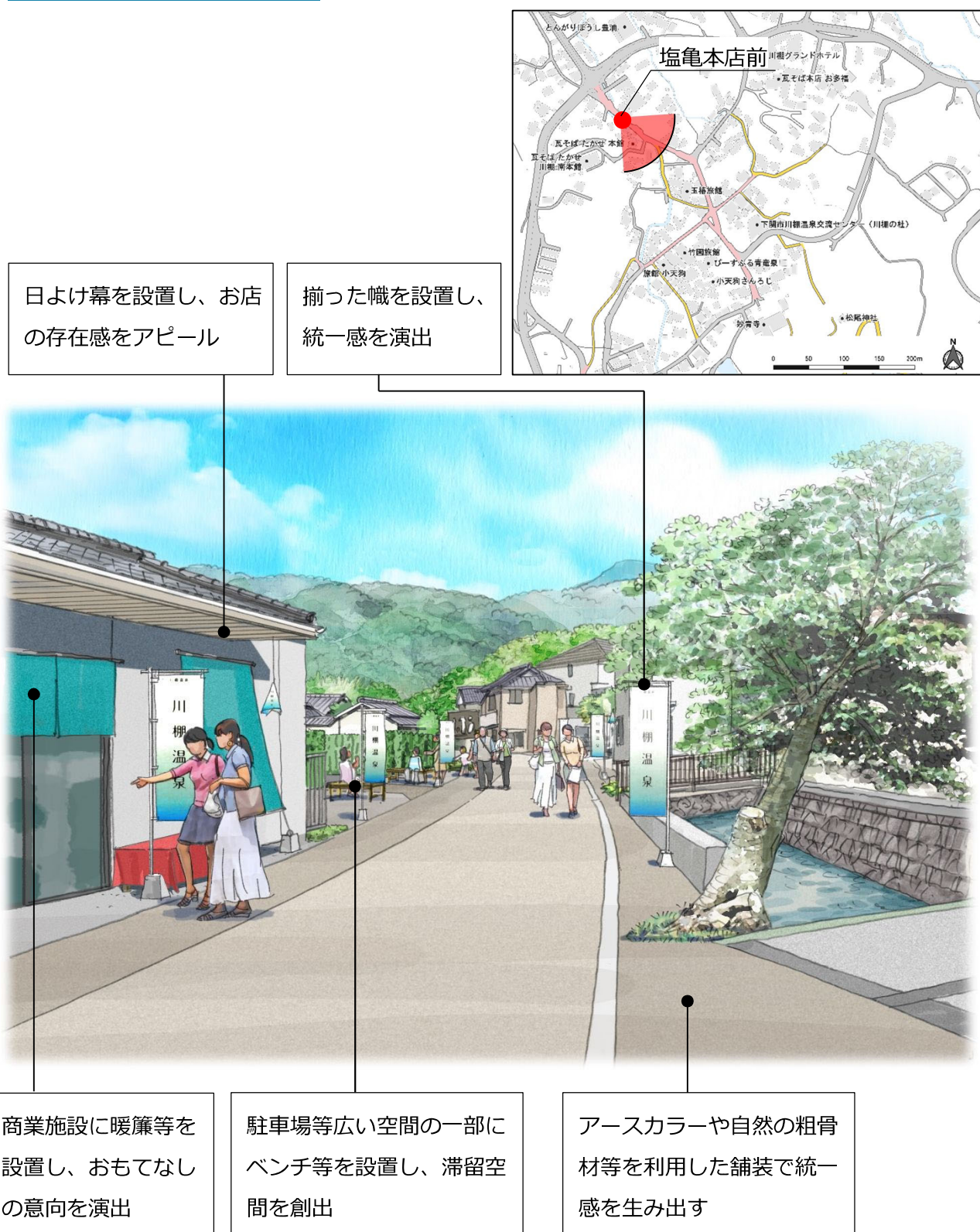


▲洋風庭園のオープンガーデン。ブルーベリーやハーブなど多くの植物が、訪れた人をもてなしている

8. 将来予想図

「7. 景観まちづくりのポイント」で紹介した取組を官民で実践することで、川棚温泉エリアの魅力を引き出すことができます。ここでは、ポイントの取組を実践した場合の一例を将来予想図としてご紹介します。

□ 塩亀本店前（夏のイメージ）



□ 観光客専用駐車場付近（秋のイメージ）



駐車場等広い空間の一部
にベンチ等を設置し、滞
留空間を創出

無機質な自動販売機を
隠すことで、より統一
感を高める

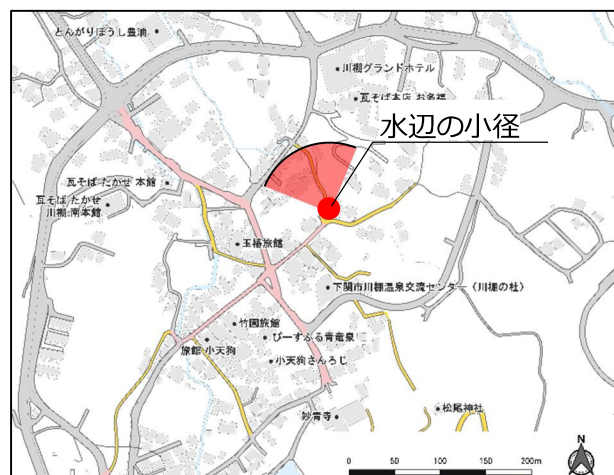


アースカラーや自然の粗骨
材等を利用した舗装で統一
感を生み出す

フラワーポットや移動
式プランターボックス
等で彩りを追加

視界に多く入り込むブロック塀に
竹柵等を設置することで、和の雰
囲気と統一感を生み出す

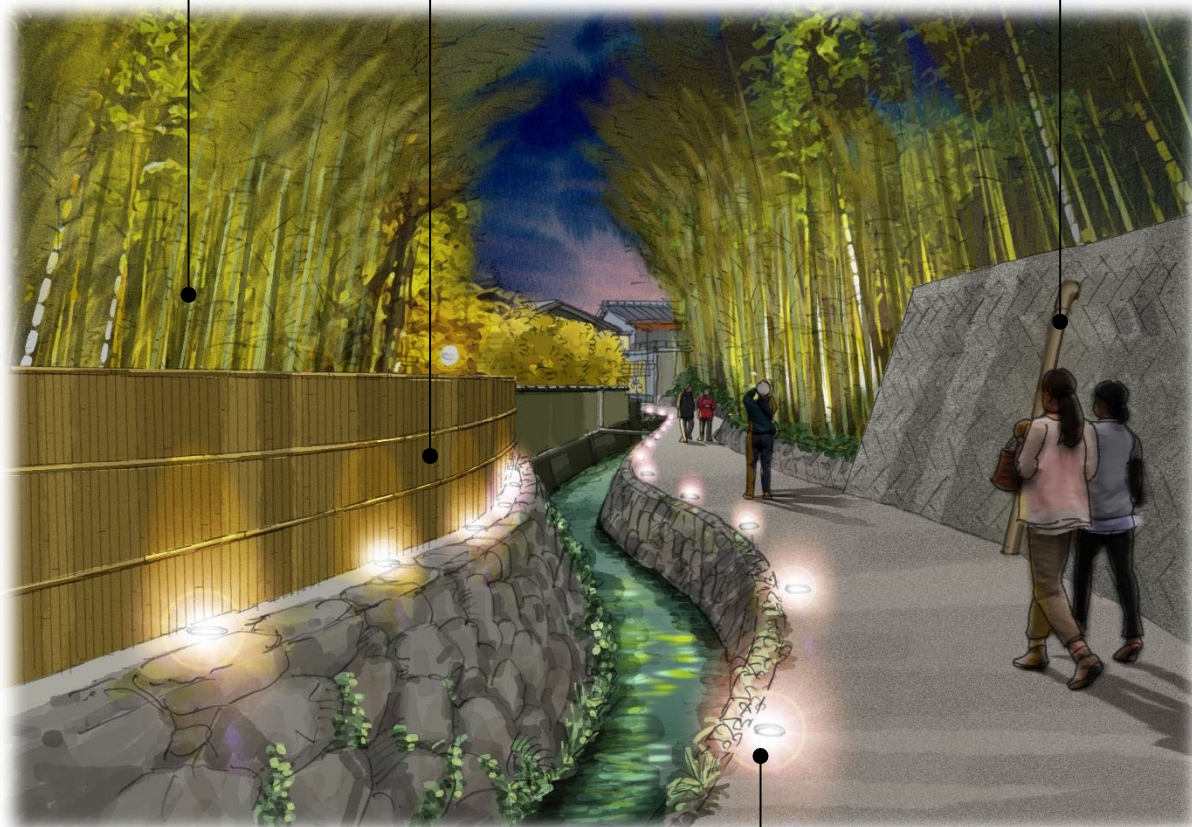
□ 水辺の小径（秋のイメージ）



林や森を適正に管理することで、魅力を向上

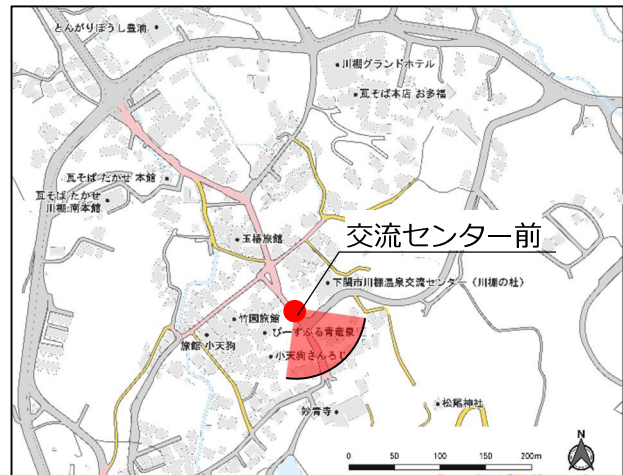
竹柵などで周辺を囲むことで、通過する際の空間への没入感を生み出す

目線の高さにある配管を塗装することで、一体感を創出



ライトアップを用いて夜の魅力を向上

□ 交流センター前（春のイメージ）



まちのサインを統一することで統一感を演出

イベント時はキッチンカー等を配置することで、プラスアルファの魅力を追加

サイン等の形状や色調を周囲の環境に配慮することで、統一感を生み出す



歩車道の境界で舗装のパターンを変えることで、安全性と利便性を向上

場所に応じて舗装材等を変えることで、重厚感を向上

□ 竹園旅館前



駐車場等広い空間の設
えを工夫することで魅
力を向上

複数の住居や店舗で揃った幟を設置し
たり、竹垣などのテイストを合わせたり
することで、一体感や統一感を演出



舗装や外構にアースカラー等
自然の色や自然由来のものを
用いて修景の調和を図る

9. 景観まちづくりに要する概算事業費

景観まちづくりをするために必要と考えられるベンチ、テーブル等の費用を算出しました。この内容は概算費用ですので、詳細については別途検討が必要です。

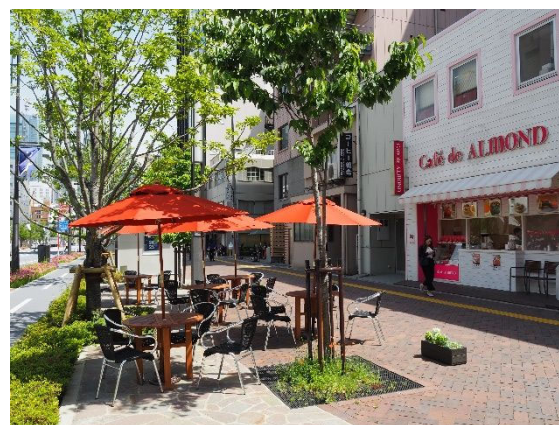
魅力ある川棚温泉エリアをより良い空間に変えていきましょう。

	仕 様 (単位 mm)	金 額
①ベンチ	W2790×D450×H400	¥ 120,000 ～
②プランターボックス	内径寸法 W750×D375×H260	¥ 80,000 ～ ※植栽除く
③パラソルテーブル	W1350×D570×H715	¥ 40,000 ～
④幟 (のぼり)	W600×H1800	¥ 3,000 程度 (20～49枚注文の場合) ※のぼり旗、旗立てブロック、竿付き。
⑤日よけ幕	W900×H1800	¥ 20,000 程度 ※固定の仕方やのれん棒は除外。
⑥ガーデンパラソル	直径 2700	¥ 20,000～ ※折り畳み式。
⑦風鈴を用いたイベント	川棚温泉オリジナル	¥150,000～(オリジナル風鈴の値段のみ) ※架台等は除く。(70 個程度) ※デザイン費等その他人件費等除く。

W：幅 H：高さ D：奥行き



①ベンチ、②プランターボックスのイメージ



⑥ガーデンパラソルのイメージ



⑦風鈴のイメージ

～関係法令（参考）～

景観まちづくりに関係する法令等の一部を下記にお示しします。

事前の申請等が必要な場合もありますので、詳細については市にお問い合わせください。

関連事項	関係法令等	備考
市道の占用・使用に関する こと	道路法	県道、国道の場合は、それぞれ山口県、国土 交通省が窓口。 警察や消防への申請等が必要な場合あり。
準用河川・普通河川の占用 使用に関すること	河川法	2 級河川、1 級河川の場合は、それぞれ山口 県、国土交通省が窓口。 警察や消防への申請等が必要な場合あり。
景観に関すること	下関市景観条例	
屋外広告物に関すること	下関市屋外広告物 条例	
土地の利用（用途地域）等に 関すること	都市計画法、 都市計画情報	
建築に関すること	建築基準法等	

川棚温泉エリア景観デザインガイドライン

発 行 年 月：令和6年3月

発 行：下関市

編 集：下関市役所豊浦総合支所

地域政策課



川棚温泉エリア
景観デザインガイドライン
令和6年3月
下関市